

## 目次

### 種撒きと刈入れ

人を導いて主に帰させる星.....	3
御使いが福音を伝える.....	5
あなたは「文字伝道」のために何が出来るか？.....	7
アブラハムが信じた神.....	9
真の神の賞与.....	10
真の神を知れば、必ず平安を得られる.....	12
真の神に頼る人はさいわいである.....	13
離れる、仕える、待ち望む.....	14
サタンの支配から真の神に帰する.....	16
宦官が救いを受ける.....	17
私達が信じているのは誰であるかを知るべきである.....	18
さいわいな人.....	20
天国の福音.....	22

### 信仰と生活

自分を捨てる.....	23
霊的な喜び.....	24
人の顔.....	26
美名、虚名、汚名.....	28
153匹の魚.....	30
聖書から見たクリスチャンの職業.....	32
心の貧しい人達はさいわいである.....	36
悲しんでいる人達はさいわいである.....	37
柔和な人達はさいわいである.....	38
義に飢え渴いている人達は、さいわいである.....	39
憐れみ深い人達は、さいわいである.....	40
心の清い人達は、さいわいである.....	41
平和をつくり出す人達は、さいわいである.....	42
義のために迫害されてきた人達は、さいわいである.....	43
空の空、空の空.....	44
労苦の人生.....	46

一言 .....	48
話すことと聞くこと.....	49
聖別されるように.....	51
聖別される道.....	53
何を思うべきか？.....	55
時間を惜しむ.....	57
機会を掴む .....	58
無駄に土地をふさがない.....	60
あなたが富んでいる時.....	61
あなたが貧しい時.....	62
アマレク人に殺された人.....	63
玉に瑕 .....	64
金銭を制御する道.....	66
王の戒め .....	68

## 断食と祈り

自らの祈りと助祷.....	70
主の祈りにならう.....	71
主がゲツセマネで祈る.....	73
断食を論じる.....	75

## 人物と模範

キリストの形.....	77
イエスは変わらない.....	79
一番はじめの人      アダム.....	81
ヨセフの信仰.....	83
ナバルとアビガイル.....	85
シバの女王がソロモン王に会う.....	86
アサの信仰復興運動.....	88
ネヘミヤの信仰の模範.....	90
小預言者の精神.....	91
信仰偉人伝 .....	93
五旬節前後のペテロ.....	100
好青年テモテ.....	103
聖書にある模範的な婦人.....	105
記念に値する小人物.....	107

## 種撒きと刈入れ

### 人を導いて主に帰させる星

序言：

東から来た博士達は一つの星を見た。それは彼らを救い主の前に導く星である（マタ 2：1～12）。この星は信者を指し、私達は人を導いて主に帰させる星とならなければならない（ダニ 12：3；創 37：9～10）。では、如何にして人を導いて主に帰させる星となるのか？

#### 一、必ず「主」の星でなければならない（マタ 2：2）

- 1、主に属さなければ、どのように人を導いて主に帰させるというのか？（参考：マタ 15：14；ヨハ 1：41～42，43～46）
- 2、バプテスマを受ける事が主に属す事である（ガラ 3：26～29）

#### 二、高い空で輝く星（マタ 2：2，9）

- 1、神は全ての星を造って空に並べ、全地を照らした（創 1：14～17）
- 2、信徒は天の国民である（ピリ 3：20）、清く、世の人を超越し、世の人と聖別されている（コリ 6：17～18）
- 3、星のように輝く（ダニ 12：3）；全地を照らす（マタ 5：16；ピリ 2：14～15）

#### 三、先に進む星（マタ 2：9）

- 1、信仰に行いがなければ死んでいる（ヤコ 2：26）；信徒は必ず神の御旨を守り行う（ヤコ 1：22～25；マタ 7：21）
- 2、勇敢に前に進み、艱難を恐れず、死をも恐れない（ヘブ 10：37～39、12：1～2；ピリ 3：12～13）

#### 四、人を導いて主に帰させる星（マタ 2：9）

- 1、主に向かって行く（ピリ 3：12～14）
- 2、博士を主の前まで導いた。では、あなたはどうか？どんな事があろうとも、人を救わなければならない（コリ 9：22）

#### 五、人を喜ばせる星（マタ 2：10）

- 1、光は快いものである（伝 11：7）；福音を伝え、良き知らせを報せる。彼らの歩みは美しい（ロマ 10：15）
- 2、主のために輝き、人を導いて主に帰させる信徒は、人々から愛される
- 3、人を導いて主に帰させ、誰もが主によって喜びに溢れる（使徒 16：30～34、8：8）

**結論：**

人を導いて主に帰させる星となる

さまよう星となっではいけない(ユダ 13)

## 御使いが福音を伝える

序言：黙 14：6~7

### 一、御使いは誰か？（6）

- 1、真の神の使者（マタ 11：10；黙 1：1）
- 2、教会の働き人（黙 1：20；マル 16：20）
- 3、聖霊を受けた人（ヨハ 20：21~22；ロマ 10：15）

### 二、空を飛ぶ（6）

- 1、飛ぶ：速く飛ぶ、迅速を指す；福音を速く伝える（マコ 16：15；ヨハ 9：4）
- 2、空：超越、普遍。色々な伝達工具を利用する：テレビ、ラジオ、インターネットを通して福音を全世界に伝え、地に至るまで伝える（使徒 1：8）
- 3、主は言われた：天国の福音は全世界に伝えられ、それから最後が来る（マタ 24：14）

### 三、永遠の福音がある（6）

- 1、主の福音は永遠に変わる事がない（ヘブ 13：8；ユダ 3； コリ 11：1~4；ガラ 1：6~9）
- 2、主の言葉は永遠に残る（ペテ 1：25）
- 3、人に永遠の命を与え、人を天国へと導く（ヨハ 3：16、17：3； テモ 4：18）

### 四、地に住む人に伝える（6）

- 1、全て血と肉に属する人に伝える
- 2、全ての国民、部族、国語、民族である（黙 14：6、5：9）
- 3、福音は全て信じる人を救う（ロマ 1：15~16）

### 五、伝える内容（7）

- 1、神を恐れるべき（7）：神は万有の源であり、人類の根本である（使徒 17：26~28）
- 2、神に栄光を帰する（7）：主の降誕の一大使命は、人が神を栄えるためにある（ルカ 2：14）これは、神が人を救う目的でもあり（イザ 43：7）にせの神に栄光を帰させないためである（イザ 43：7）
- 3、神のさばきの時がきた（7）：今は見過ごされているが、神は義をもって世界をさばくその日を定められた（使徒 17：30~31）、万民は神の御前にてさばきを受ける（ペテ 4：5； コリ 5：10；マタ 25：31~46）
- 4、天と地と海と水の源とを造られたかたを、伏し拝め（7）：神は万物を造られた。全ての血と肉に属すものは、神を拝まなければならない（ネヘ 9：6；使徒 17：24~31）

## 六、結論：

この御使いは大きな声で言った(7)： 急ぎ迫る重要な事であり、世の人は特に注意して耳を傾かなければならない事を表す

## あなたは「文字伝道」のために何が出来るか？

### 序言：

福音を伝える事は主の言い付けである（マコ 16：15）

クリスチャンの責任である（ コリ 9：16～17；箴 24：11～12）

### 一、伝道の仕事の種類

1、声を上げて伝道する（ロマ 10：14～17；使徒 2：14、17：22）

口伝、色々な媒体を通して声を上げる……

2、声のない伝道：（詩 19：1～4）

行いによって感化する（ ペテ 3：1～4；マタ 5：16）

文字伝道（使徒 8：26～39；聖書、書籍、雑誌、小冊子、福音のチラシなどを通して）

### 二、文字伝道の仕事の価値

1、時空を超え、長い間経っても、いつまでも新しく感じる

2、説教する者と説教を聞く者の身分の制限を受けない

3、読む者の身分、年齢、性別などの拘束を受けない

文字伝道によって救いを得た事例はどこにでもある

### 三、文字伝道の仕事の内容

1、対外：

未信者を導いてキリストに帰させる

一般のクリスチャンに教え、全き者として神の御前に導く（コロ 1：28）

2、対内：

霊的修行； 聖書を調べる； 報せる； 証する； 証を残す  
交流 ……

### 四、あなたはこの仕事のために何が出来るか？

1、あなたは多く書く事が出来る（ヨハ 1～4；ルカ 1：1～4）

2、あなたは多く話す事が出来る：

自分の見た事、聞いた事（自分の、或いは家族の証）を話し、代筆してもらうか、  
或いは録音して整理しておく

3、あなたは多く読む事が出来る：

聖書を熟読し、各種霊的書物を詳しく読み、必要のある人に話して聞かせる

4、あなたは文字伝道に関わる品を準備して、色々な場所や機会を利用して配る事が出

来る

- 5、あなたは文字伝道に関わる作品を多くの読者に紹介する事が出来る
- 6、あなたは文字伝道の仕事のために多くの金銭、時間、恵みをささげる事が出来る
- 7、あなたは、毎行われる文字伝道が最大の力を発揮し、三十倍、六十倍、百倍の実を結ぶ事が出来るように多く祈る事が出来る

**結論：**

全世界に福音が伝えられれば、イエスは再び来られる（マタ 24：14）

文字伝道の仕事は、宣教にとっての先鋒であり、支援でもある

## アブラハムが信じた神

アブラハムが信じた神は、今の私達が拝む真の神である。では、どのような神なのか？

### 一、無から有を呼び出される神（ロマ 4：17）

- 1、真の神は無から全てを造られた（ヘブ 11：3；詩 33：6, 9）
- 2、真の神は子を産めないサラにイサクを産ませた（ヘブ 11：11, 12；創 18：9～14）
- 3、真の神はザレパテのやもめに一握りの粉と少しの油を尽きる事なく取らせた（列王上 17：8～16）

### 二、死人を生かす神（ロマ 4：17）

- 1、アブラハムはイサクをささげた、それは、まるで死の中から息子を得たようである（創 22：1～14；ヘブ 11：17～19）
- 2、真の神はザレパテのやもめの子を生き返らせた（列王上 17：17～24）
- 3、真の神はシュネムのやもめの子を生き返らせた（列王下 4：8～37）

### 三、全能の神（創 17：1）

偶像は「何も出来ない」にせの神である（詩 115：4～7）

- 1、真の神は日と月を一日あまり止めた（ヨシュ 10：12～14）
- 2、真の神は話す事が出来ない口バの口を開けて、話をさせた（民 22：28, 30）
- 3、真の神はらい病を患っていたナアマンをすぐに清めた（列王下 5：1～14）
- 4、真の神は荒野で四十年間生活したイスラエル人の着物を擦り切れさせず、足も腫れさせなかった（申 8：4；ネへ 9：21）

神は何でも出来る神である。私達は誠の心をもって神を拝み、神を信頼する（詩 37：5；イザ 26：3）

## 真の神の賞与

### 序言：

バプテスマのヨハネは言った：「人は天から与えられなければ、何ものも受けることはできない」（ヨハ 3：27）

全ては真の神の賞与であると信じる事は、信仰の表れである（ヘブ 11：6）

### 一、全ての財産は真の神の賞与である

- 1、神は農夫の良い収穫を祝福される（詩 85：2；創 26：12～13；使徒 14：17）
- 2、神は漁師に魚を与える（ルカ 5：1～7；ヨハ 21：6）
- 3、富を得る力は神が与えた（申 8：18）
- 4、全ては真の神が建てられ、守られる（詩 127：1）
- 5、全ての事において感謝する（ヨブ 1：21）
- 6、喜んでささげる（歴代上 29：10～14）
- 7、喜んでささげれば、満ち足りて余る（箴 3：9～10）；そうでなければ、必ず乏しくな  
って、貧しくなる（申 28：47～48）

### 二、人の知恵は真の神が賜る

- 1、知恵は尊い（箴 4：7、8：11；伝 7：11～12）
- 2、神はヨセフに賢さを与えた（創 41：15～16）
- 3、神はソロモンに大いなる知恵を与えた（列王上 3：7～12、4：29～34、10：23～24）
- 4、神はダニエルに知識と知恵を与えた（ダニ 1：17～20）
- 5、知恵が足りない時は、神に願い求める（ヤコ 1：5）
- 6、知恵があるものは神に栄光を帰する（創 41：15～16；コリ 4：7）
- 7、あなたの知恵をささげ、主のために働く（使徒 7：22；ヘブ 3：2、5；出エジ 35：25  
～26、30～35）

### 三、権威は真の神が賜る

- 1、イエスは言われた：「あなたは、上から賜わるのでなければ、わたしに対してなんの  
権威もない（ヨハ 19：11）
- 2、聖書によれば：「神によらない権威はなく、おおよそ存在している権威は、すべて  
神によって立てられたものだからである」（ロマ 13：1）
- 3、ハンナの祈り（サム上 2：7～8、10）
- 4、神は人に権威を与えるが、人から権威をも奪う（ダニ 4：17、28～37）
- 5、なぜなら、国と、力と、栄えは全て神のものだからである（マタ 6：13）

#### 四、子供は神から賜った嗣業である

- 1、ソロモンの詩（詩127：3～5）
- 2、ヤコブの証（創33：5）
- 3、ヨセフの信仰（創48：8～9）
- 4、ハンナの祈り（サム上2：5）
- 5、子供がいないなら願い求める（創25：21；サム上1：10～11；創29：31、30：22～24）
- 6、子供がいるなら良く顧みて、良く教える（箴22：6；エペ6：4）
- 7、子供をささげる（ヘブ11：17～19；サム上1：24～28）

#### 五、賢い妻は神から賜る

- 1、聖書の教え（箴19：14、18：22）
- 2、神はエバをアダムの前に連れてきた（創2：18，21～24）
- 3、結婚の大事は、よく祈り、神に願い求める（マル10：9；創24：7，12，63～67）
- 4、満足して、感謝する；妻を重んじて敬い、妻と共に楽しく日々を過す（ペテ3：7；伝9：9）

#### 六、命は神が賜る

- 1、命は最も尊い（マタ16：26；伝9：4～6）
- 2、生と死は神の御手にある（サム上2：6）
- 3、神は人に命と、息と万物を与えた（使徒17：25，28）
- 4、主のために生きる（ロマ14：7～8）
- 5、死んで益がある（ピリ1：21）

**結論：ヤコ1：17**

## 真の神を知れば、必ず平安を得られる

聖書：ヨブ 22：21

### 一、イエスは真の神である

- 1、万物はイエスによって造られた（ヨハ 1：1～3；コロ 1：16）  
イエスは万物の主宰であるから、魚もイエスに服す（マタ 17：27；ルカ 5：4～7）；  
風も海も鎮める事が出来る（マタ 8：23～27）
- 2、命はイエスの御手にある（ヨハ 11：24、1：4）  
イエスはナインの町のやもめの息子を生き返らせた（ルカ 7：11～15）；ヤイロの娘を生き返らせた（ルカ 8：49～55）；死んで4日経ったラザロを生き返らせた（ヨハ 11：39～44）
- 3、イエスは唯一の救い主である（ルカ 2：11；使徒 4：12）
- 4、賞罰は全てイエスにある（黙 22：12； コリ 5：10）
- 5、イエスは父と一つである。イエスは真の神である（ヨハ 10：30；イザ 9：6；使徒 20：28；ヨハ 14：8～10）

### 二、イエスを信じれば、必ず平安を得られる

- 1、肉体の平安（マタ 8：17）  
12年間長血を患った婦人（マル 5：25～34）と悪霊に憑かれた少女は、イエスを信じた事によって、平安を得られた（マタ 15：22，28）
- 2、心の平安（マタ 11：28）  
イエスを信じる事は、さ迷う羊が羊飼いの懐に戻ったようであり、それによって頼る事ができ、望みを抱く事もできる。故に、如何なる環境でさえ、必ず平安がある（ペテ 2：25；ピリ 4：11～13；詩 131：2）
- 3、永遠の平安（ヨハ 16：33；ヘブ 4：9～10）  
信仰に入った後、主の中にあって自分の信仰を保ち続ける事が出来るなら、必ず永遠の安息、永遠の喜びと栄光を得る事が出来る（ヨハ 14：1～3；ヘブ 12：26～28）

### 結論：

イエスを信じて、再生の洗いを受ければ、今生では平安があり、来世では永遠の幸せがある（使徒 2：38；ヨブ 22：21）

## 真の神に頼る人はさいわいである

聖書：エレ 17：7

### 一、世の人が頼るもの

- 1、財産に頼る（詩 49：6～9； テモ 6：17）
- 2、勢力に頼る（八バ 1：11；詩 118：8, 9）
- 3、偶像に頼る（エレ 10：5；詩 115：4～8）

### 二、天の上にいる真の神を頼る

- 1、主はとこしえの神（イザ 40：28；詩 136：1）
- 2、主は全能なる神（ヨブ 37：23；創 18：14）
- 3、主は慈愛なる神（出エジ 34：6；詩 145：8）
- 4、主は真実なる神（申 32：4、7：9）

### 三、真の神に頼る人にはどんなさいわいがあるのか？

- 1、平安を得る（イザ 26：3, 4；詩 46：1～3）
- 2、一つも欠けるものがない（詩 34：8～10、23：1）
- 3、永遠の命を得る（ヨハ 5：24；黙 2：10）

### 結論：

人を頼るものはのろわれる、真の神を頼るものはさいわいである（エレ 17：5～8）

## 離れる、仕える、待ち望む

聖書： テサ 1：9～10

### 一、偶像から離れる

#### 1、偶像の種類

偶像は人が金や土、木を使って作った神像である（イザ 40：19，20）

ある人は動物を神とする。例：牛、馬、虎、獅子、狐、豚……（参考：エゼ 8：10）

ある人は植物を神とする。例：アカギの巨木、松の木、神木……など

ある人は鉱物を神とする。例：石、岩……など（参考：レビ 26：1；民 33：52；エレ 2：27）

ある人は天上の万物を神とする。例：太陽、月、星、雷……など（参考：申 4：19～28、17：3；エゼ 8：16）

ある人は古人を神とする。例：尊神、媽祖、神仙、関聖帝君……など（参考：エレ 7：18、44：17，18；エゼ 8：14、16：17）

#### 2、なぜ偶像から離れるのか？

偶像は被造物であり、人が造ったにせの神である（ロマ 1：23，25；詩 115：4；イザ 44：12～17）

偶像は動けない、災を下す事もできず、また幸を降らす力もない（詩 115：5～8；エレ 10：3～5）

偶像は虚しいもので、迷いのわざである（エレ 10：14，15）

偶像を拝む事は、神が最も憎む事である（列王上 21：26；申 27：15；出エジ 32：4～6，28）

#### 3、どのようにして偶像から離れるか

いかなる偶像をも拜んではならない（出エジ 20：4～6；ダニ 3：16～18）

今までにあった偶像を徹底して壊す（歴代下 15：16；列王下 23：4～6）

偶像に供えた物を食べてはならない（使徒 15：28，29；コリ 10：19～20）

真の神に帰して、専心して神を拝む（使徒 14：15、26：18）

### 二、真の神に仕える

#### 1、なぜ真の神に仕えるのか？

真の神は私達を造り、私達に命を賜った（創 1：27；使徒 17：26～28）

真の神は私達を顧みられた（使徒 14：15～17；マタ 5：45）

真の神は私達を救われた（ヨハ 1：1，14；ロマ 5：8、12：1）

#### 2、どのようにして真の神に仕えるか？

祈りをもって神に仕える（ルカ 2：36，37；使徒 13：1，2）

財産をささげて神に仕える（箴 3：9；ルカ 8：1～3；民 18：21）

働く事をもって神に仕える（ ペテ 4 : 10 , 11 ; ロマ 12 : 6 ~ 8 , 11 ）

### 三、主の再臨を待ち望む

#### 1、再臨の約束

主の約束（マタ 16 : 27 ; ヨハ 14 : 2 , 3）

御使いの証（使徒 1 : 10 , 11）

使徒の期待（ヤコ 5 : 7 ; ヨハ 3 : 2）

#### 2、再臨の終局

聖徒を迎えて天国に入る（マタ 25 : 31 ~ 34 ; テサ 4 : 15 ~ 17）

悪しき者と悪魔をさばいて地獄に落とす（マタ 25 : 41 ~ 46 ; 黙 21 : 8）

古き天と地は燃え崩れ、新しい天と新しい地が現れる（ ペテ 3 : 13 ）

#### 3、どのようにして主の再臨を待ち望むのか？

油を備えて光を輝かす（マタ 25 : 1 ~ 13 ; 黙 19 : 7 , 8）

いつも全力を注いで主のために働く（マタ 25 : 14 ~ 30 ; コリ 15 : 58）

互いに切に愛し合う（マタ 25 : 31 ~ 46 ; ペテ 4 : 7 , 8）

## サタンの支配から真の神に帰する

聖書：使徒 26：18

### 一、サタンに支配された人

全世界は悪しき者の配下にある（ヨハ 5：19）

#### 1、自由がない

罪のしもべとなり、罪に支配され、逃れる方法がない（ロマ 6：16, 17；ヨハ 8：34；ロマ 7：14, 17~24；エレ 13：23）

サタンのしもべとなり、偶像に仕え、偶像のために心が狂う（ヘブ 2：15；コリ 10：19, 20；エレ 50：38）

#### 2、平安を得られない

心から平安が失われ、満足しない、喜びもない（イザ 57：21；創 3：9, 10；箴 28：1；伝 5：10~12）

肉体に平安がなく、生涯労苦して、多くの病を患う（創 3：10~19；詩 90：10；ルカ 13：16, 10~17）

#### 3、望みがない

今生に望みがない（エペ 2：12；伝 1：2, 23；テモ 6：7）

来世では永遠の刑罰を受ける（マタ 25：41；黙 21：8）

### 二、真の神に帰する人

#### 1、真の自由がある

主の尊き血によって罪が赦され、聖霊に頼って私達は罪悪に勝てる（ロマ 8：1, 2；使徒 2：38；ロマ 7：24, 25）

サタンには信徒の自由を奪う権威はない（ヨハ 5：18；ヨハ 8：36）

#### 2、大いに平安がある（ルカ 2：13, 14）

肉体が主によって癒される（ヨブ 22：21；マル 5：25~34）

心は大いなる平安を得る（マタ 11：28；ヨハ 16：33）

#### 3、望みに満ち溢れる

主の再来を望み、主の御姿を見る（テト 2：13；ヨハ 3：2, 3）

主と永遠に天国に住むことを望む（ペテ 3：11~13；テサ 4：17）

### 結論：

信仰に入っていない人は、今日のうちに主を信じ、バプテスマを受けてキリストに帰する事を願っている。また、信仰に入った人は、恵みの中にて堅く立ち、聖別された人々と共に栄光を分かち合おう（ガラ 3：27；使徒 26：18）

## 宦官が救いを受ける

聖書：使徒 8：26～40

### 一、宦官の長所

- 1、遠い所から、熱心にエルサレムに上って、真の神を拝む（使徒 8：27）
- 2、非常に神の御言葉を愛し、帰途につく馬車の上でも聖書を読んでいた（8：28）
- 3、非常に謙って、ピリピに答えた：「だれかが、手びきをしてくれなければ、どうしてわかりましょう」（8：30～31 上）
- 4、働き人を厚遇し、ピリピに馬車に乗って座るよう勧めた（8：31 下）
- 5、誠実に聴講して、努力して追求する（8：31～34）

### 二、求道の結果

- 1、イエスが救い主であることを知る（使徒 8：35，37）
- 2、バプテスマを受けると決心する（8：36，38）

バプテスマについて論じる時、一つの確かな証拠がある。即ち：「1923 年の時、エチオピアの太子がアメリカを訪れた時、彼は今に至るまでピリピの伝えた真理を変えた事はないと話した。彼らは水に浸るバプテスマを受け、土曜日に安息日を守った：彼らの国では、3 6 0 0 万人の人が安息日を守っている」（北京アッセンブリ教会報より抜粋）
- 3、心から喜ぶ（8：39）

### 三、私達に対する教え

- 1、喜んで集会し、神を礼拝する（詩 122：1；ヘブ 10：25）
- 2、熱心に聖書を読み、努めて調べる（詩 119：77，147；ルカ 2：46）
- 3、謙った心をもって互に人を自分より優れた者と思う（ペテ 5：5，6；ピリ 2：3；マタ 5：3）
- 4、神の働き人を厚遇する（マタ 10：40～41）
- 5、救い主イエスと真の教会が伝える真理を認識して信じるならば、戸惑う事なくバプテスマを受けて、キリストに帰すべきである（使徒 22：16；ガラ 3：27；使徒 2：41）

## 私達が信じているのは誰であるかを知るべきである

聖書： テモ 1 : 12

序言：

パウロとペテロ達が信仰に対して堅く立てるのは、誰を信じているのかをはっきりと理解しているからである。故に、私達の信じる方を再度認識して、皆の信仰を堅く出来ればと思う。

### 一、私達が信じる真の神を知る

- 1、神は霊である。霊とまこととをもって礼拝する（ヨハ 4 : 24 ; 出エジ 20 : 4 , 5）  
神は人の手によって造られた宮には住まない、人の手によって仕えられる必要もない、いけにえをささげる必要もない（使徒 17 : 24 , 25）
- 2、神は唯一の神である（ コリ 8 : 6）  
真の神以外に別の神はいない（申 5 : 7）
- 3、神は全てを知る神である  
神は私達の言葉、行い、思いの全てを知っている（詩 139 : 1~4 ; ヘブ 4 : 13）
- 4、神は天地の主宰である（詩 103 : 19）  
国家の盛衰、人の生、死、禍、福は全て神の御手にある（ヨブ 12 : 23 ; サム上 2 : 6, 7）

### 二、私達の信じるイエスを知る

- 1、イエスは神が肉体となってこの世に来た（ヨハ 1 : 1 , 14 ; イザ 9 : 6）  
イエスは父と一つである（ヨハ 10 : 30）
- 2、イエスは造物主である  
万物はイエスによって造られた（ヨハ 1 : 1~3）
- 3、イエスは命の主である（ヨハ 1 : 4, 11 : 25）  
イエスは死人を生き返らせる（ヨハ 11 : 39~44 ; ルカ 7 : 11~15）
- 4、イエスは救世主である（使徒 4 : 12）  
人の肉体を救う（病気 : ヨハ 5 : 1~9 ; 癡狂 : マル 5 : 1~6）  
人の魂を救う（ テモ 4 : 18 ; ルカ 23 : 41~43）

### 三、私達の信じる聖霊を知る

- 1、聖霊とは、神の霊であり、イエスの霊でもある（使徒 16 : 6 , 7 ; ロマ 8 : 9）  
三位一体の第三位ではなく、聖霊は真の神ご自身である（ヨハ 4 : 24）
- 2、聖霊を受けることと救いには密接な関係がある  
新しく生まれ変わる要件の一つである（ヨハ 3 : 3~6）

聖霊を受けなければ、キリストに属さない(ロマ8:9)

聖霊は神の国を継ぐ保証である(エペ1:13,14)

## さいわいな人

### 一、イエスを知る人（マタ 16：13～17）

- 1、イエスは肉体となった神である（ヨハ 1：1, 14；イザ 9：6）
- 2、イエスは万物を創造し、万物を保つ神である（ヘブ 1：2～3；ヨハ 1：3）
- 3、イエスは唯一の救い主である（使徒 4：12；ルカ 2：2～11）
  - 罪悪に支配された人を救う（マタ 1：21； テモ 1：15）
  - 人の病気を癒す（マタ 8：14～17；ヨハ 5：1～9）
  - 人についた汚れた霊を追い出す（ルカ 8：2；マル 5：1～19）
  - 人を救って天国に入らせる（ヨハ 14：1～3； テモ 4：18）
  - イエスを知る人は、今生には平安があり、来世には幸福がある（ヨブ 22：21）
  - イエス・キリストを知る事を至宝とする（ピリ 3：7～8）

### 二、神によって罪を赦された人（ロマ 4：7～8）

- 1、全ての人は罪を犯した（ロマ 3：23； ヨハ 5：19）
- 2、罪のしもべとなる（ヨハ 8：34；ロマ 7：14～24）
- 3、罪の代価は死である……永遠の滅びに至る（ロマ 6：23、5：21）
- 4、神は愛である。一人も滅びない事を願っている（ヨハ 4：8, 16； ペテ 3：9）
- 5、神が来られたのは、ご自身の犠牲にして血を流され、全ての人のあがないとされた（マタ 20：28；使徒 20：28；ロマ 5：8）
- 6、全ての人に罪と汚れを清める泉を開かれた（ゼカ 13：1； ペテ 3：21）
- 7、信じてバプテスマを受ける人は、罪が赦され、神の子となり、神の国を継ぐ（使徒 2：38、22：16；ヨハ 3：5；ガラ 4：4, 7）

### 三、聖霊を受けた人（イザ 44：3）

- 1、聖霊は人を新しく生まれ変わらせる（ヨハ 3：5；テト 3：5）
- 2、聖霊は人に永遠の命を得させる（エゼ 37：14；黙 22：17）
- 3、聖霊によって私達が神の子であると証明される（ロマ 8：14～16, 9）
- 4、聖霊は救いの証拠である（エペ 1：13～14）
- 5、聖霊を受ける事は、神の大いなる愛を得る事であり、さいわいな人である（ロマ 5：5）
- 6、異言を語る事が聖霊を受けた証拠となる（使徒 2：4、10：44～46、19：2～7；マル 16：17；使徒 2：33）

### 四、主の内において死ぬ人（黙 14：13）

- 1、主の内であれば、罪の内では死ぬ事になる（ヨハ 8：24）

- 2、第二の死を受ける事は、永遠の滅びに至る事である（黙 20：12～15、21：8； テサ 1：8～9）
- 3、主の内であって死ぬ人は、忍耐についての主の言葉を守り、死に至るまで忠実であった人である（黙 3：8, 10、2：10）
- 4、これらの人達には、義の冠が彼らを待っている（ テモ 4：7～8； マタ 25：34）
- 5、故に、彼らはさいわいである。神の御前においては尊いからである（詩 116：15）

## 天国の福音

イエスの真理は「天国の福音」とも称され、すべて信じる人を助け、天国に救い入らせる（マタ 24 : 14 ; テモ 4 : 18）

### 一、天国は本当にあるのか？

- 1、聖書の証（ヘブ 11 : 13~16、12 : 27 , 28）
- 2、イエスの証（ヨハ 3 : 11~13、14 : 1~3）
- 3、聖霊の証（ヨハ 16 : 7 ; エペ 1 : 13 , 14）
- 4、使徒の証（ コリ 12 : 2~4 ; ペテ 3 : 13）

### 二、天国の情景はどんなものか？

- 1、多くの住まいがあり、朽ちない地である（ヨハ 14 : 2 ; ペテ 1 : 4 ; ヘブ 10 : 34）
- 2、最も安定し、憂いや悩みもなく、死もない国である（ヘブ 12 : 28 ; 黙 7 : 13~17 ; ルカ 20 : 36）
- 3、栄光に満ちた、ほまれと喜びの世界（詩 73 : 24 ; マタ 13 : 43 ; 黙 4 : 8~11）
- 4、形容する事ができないほど、この美しい場所より良いものはない（ピリ 1 : 23 ; コリ 2 : 9）

### 三、どうすれば天国には入れるのか？

- 1、イエスを信じる（ヨハ 14 : 6 ; 使徒 16 : 30 , 31 ; 使徒 4 : 12）
- 2、水と霊によって生まれる（ヨハ 3 : 5 ; テト 3 : 5 ; 使徒 2 : 38）
- 3、真の神の御旨を守り行う（マタ 7 : 21~23 ; テサ 4 : 3~5）

## 信仰と生活

### 自分を捨てる

#### 序言：

自分を捨てる事は主に従う第一歩である（マタ 16：24）

自分を捨てるとは何か？それは、自分を捨て、自分を消し、自分をなくしてそれをささげる事である。三つに分けて述べたいと思う：

#### 一、私意がない（マタ 26：39）

- 1、神の思いは人の思いよりも高い（イザ 55：8）
- 2、完全に神の御旨に従い、絶対に私意を持たない（ピリ 2：6～11）
- 3、全ての災いは神から来るものであり、私は黙って口を開きません（詩 39：9）
  - 身体が試練を受ける（コリ 12：7～9；ヨブ 2：10）
  - 財産が損失を受ける（ヨブ 1：20～21）
  - 心に打撃を受ける（サム下 16：9～12；コリ 4：10～13）
  - 全てのことが臨まれたとしても、神を愛する者達にとっては、万事が益となる（ロマ 8：28）

#### 二、罪の身体を滅ぼす（ロマ 6：6）

- 1、身体における肉の情欲を殺す（ガラ 5：24；コロ 3：5～10）
- 2、罪を身体の主とさせてはならない（ロマ 6：12）
- 3、罪との関係を絶つ（ペテ 4：1～3）
- 4、自分のからだを打ちたたいて服従させる（コリ 9：27）
- 5、聖霊に頼って、多く祈れば、必ず勝つ事が出来る（マタ 26：41；ロマ 8：1～2，13）

#### 三、全身をささげる（ロマ 12：1）

- 1、主の教え（マタ 16：21～25）
- 2、マリヤは石膏のつぼを壊して、香油をささげた（マル 14：3～9）
- 3、アブラハムはひとり子をささげた（ヘブ 11：17～19）
- 4、パウロは主に一生をささげた（ピリ 3：7～8；使徒 20：22～24）
- 5、私達は生きているので、志を立てなければならない：全ては主のために、勤しむは主のために、永遠に主のために（ロマ 14：7～8；コリ 5：14～15）

#### 結論：

自分を捨てて主に従い、自分を捨てて主のために働くなら、必ず大いなる栄光と祝福を得ることが出来る（マル 11：1～10；黙 14：13）

## 霊的な喜び

### 序言：

世の人は世俗の喜びと（詩 17：14）、罪の中の喜び（ヘブ 11：25）を追い求める。しかし、クリスチャンは「神を以って喜びとする」（ルカ 1：46～47）ことであり、霊的な喜びを追い求める。では、クリスチャンの霊的な喜びとは何か？

### 一、全家族が信仰に入ること喜びとする

- 1、ダビデは言った：「そのときわが魂は主によって喜び、その救をもって楽しむでしょう」（詩 35：9）
- 2、イエスは言われた：罪人が一人でも悔い改めるなら、私達が喜び祝うのは当たり前である（ルカ 15：32，10）
- 3、獄吏一家は信仰に入って心から喜んだ（使徒 16：34）
- 4、霊的な喜びを得るためには、多くの事を証し、主のために光となって輝き、家族が救われるために祈る（マタ 5：16；ペテ 3：1；イザ 62：1）

### 二、神の宮に来ることを喜びとする

- 1、ダビデは言った：「人々がわたしにむかって「われらは主の家に行こう」/と言ったとき、わたしは喜んだ」（詩 122：1）
- 2、教会は神の家（テモ 3：15）であり、家に帰ることは最も喜ぶことである
- 3、神の宮において、私達は神に祈り、心と思いを打ち明け、万事を神に委ねる（サム 1：12～18；詩 142：1～2）
- 4、神の宮において、私達は神の御言葉を聞き、神と霊的に交わり、心身ともに喜び、平安を得る（ルカ 1：46；エペ 5：19）
- 5、古人はなんと神の宮を慕い、愛したか（詩 84：1～4，10）

### 三、神の御言葉を調べることを喜びとする

- 1、預言者エレミヤは神の御言葉を以って、喜びとし、心の楽しみとした（エレ 15：16～17）
- 2、霊的な人は常に聖書を読み、この尊い書物を通して、主の声を聞き、慰められ、喜びに溢れた（詩 119：25，50）
- 3、良い方を選んだマリヤから学ぶ（ルカ 10：39，42）

### 四、聖霊に満たされることを喜びとする

- 1、聖書曰く：「神の国は飲食ではなく、義と、平和と、聖霊における喜びとである」（ロマ 14：17）

- 2、聖霊に満たされる事こそ真の喜びである（使徒 13：52；ガラ 5：22）
- 3、パウロは言った：「酒に酔ってはいけない。それは乱行のもとである。むしろ御霊に満たされて」（エペ 5：18）

#### 五、子供達が真理を守ることを喜びとする

- 1、ヨハネは言いました：「わたしの子供たちが真理のうちに歩いていることを聞く以上に、大きい喜びはない」（ヨハ 4）
- 2、ナオミには孝行な嫁がいたので、大衆の称賛を得た（ルツ 4：15）
- 3、子供達を懲らしめよ、そうすれば彼はあなたを安らかにし、またあなたの心に喜びを与える（箴 22：6、29：17）
- 4、子供達が永遠に主から離れないために、多く祈るべきである（ルカ 23：27～28、22：31～32；ヨブ 1：5）

#### 六、福音を伝えることを喜びとする

- 1、人のたましいを救うことは最も価値ある仕事である（マタ 16：26）
- 2、福音をつたえ、良き訪れを告げる者の足は麗しい（ロマ 10：15）
- 3、古人は「神が捕われ人を救い出す」を以って喜びとする（詩 126：1～3）
- 4、使徒時代の信徒たちは、福音を伝え、人々を救うことを喜びとした（使徒 15：3、8：6～8、11：22～23）
- 5、涙をもって種まく者は、喜びの声をもって刈り取る（詩 126：5～6；ヨハ 4：36）

#### 結論：

霊的な喜びを重んじて、世俗の罪の中の喜びを重んじてはならない。預言者ハバククは言った：「わたしは主によって楽しみ、わが救の神によって喜ぶ」（ハバ 3：18）。常に主と心をひとつにし、主と共に喜ぶ事こそ、真の喜びを享受することである。私達の心、私達の家、私達の教会が「喜びの町」となれるように（エレ 33：9）

## 人の顔

### 序言：

人の顔がそれぞれ違うように、人の心もまたそれぞれ違う：人の顔色を観察して、その心を知る。幾つかの顔を以って互いに学んでみよう。

### 一、憤った顔（創 4：5～6）

- 1、愚かな者の表れ（箴 29：11、12：16）
- 2、怒ることがあっても、罪を犯してはならない。憤ったままで、日が暮れるようになってはならない（エペ 4：26）

### 二、悲しそうな顔（ルカ 24：17）

- 1、悲しみに害はあっても益はない（箴 17：22、18：14）
- 2、世の悲しみは人を死に至らしめる（コリ 7：10）
- 3、なぜ悲しむのか？（ネヘ 2：2）主に頼れば悲しむことはない（マタ 6：25～34）

### 三、恐怖の顔（ダニ 5：5～6，9～10）

- 1、罪を犯すと恐れる（創 3：10；箴 28：1）
- 2、よこしまな者には平安がない（イザ 57：21）

### 四、目を塗り、髪を飾る（列王下 9：30；エレ 4：30）

- 1、悪魔の道具（マタ 26：49；箴 21：29）
- 2、人を惑わし、自分を害する（箴 26：24～26、5：3、6：24～26）

### 五、知者の顔（伝 8：1）

- 1、容貌が輝き溢れる（喜びと知恵に溢れる）
- 2、租暴を改める（箴 29：11、12：16）

### 六、顔が日のように輝く（マタ 12：1～2）

- 1、知恵に溢れる（伝 8：1；使徒 6：10）
- 2、聖霊に満たされる（多くの霊的な交わりをする）（出エジ 34：29～30）

### 七、天使の顔（使徒 6：15）

- 1、純真で光り輝いている（ピリ 2：15～16；ヨハ 14：30）
- 2、柔和でしとやかに（ペテ 3：3～4；マタ 11：29）

**結論：**

願わくは、あなたの顔が人に喜びを与え、益となるように（箴 16：15）

## 美名、虚名、汚名

古語曰く：「虎は死して皮を残すが、人は死して名を残す」。人にとって名誉とはなんと重要なことか。ヨラムは貴い王位についていたが、惜しまれる事なくこの世を去った（歴代下 21：20）。同じように名を残すにしても、ある人は美名を後世に残し、ある人は汚名を後世に残す。また、ある人は黙々として世間に知られていない。では、あなたはどうか？

### 一、汚名

- 1、古き聖徒が最も恐れたのは汚名を残すことである（創 34：30）
- 2、聖書曰く：「悪しき者の名は朽ちる」（箴 10：7）
- 3、イゼベルの数々の悪事は明白であり、その名声は地に落ちている  
預言者を迫害する（列王上 19：1～2）  
人を殺して財物を奪う（列王上 21：1～16）  
夫を惑わして偶像を信仰させる（列王上 21：25～26）  
悲惨な結末（列王上 21：17～24；列王下 9：30～37）
- 4、ユダの罪状、悪名  
いつも財布の中身をごまかしている（ヨハ 12：6）  
金銭のために主を売った（マタ 26：14～16，24，27～50）  
悲惨な結末（マタ 27：3～5；使徒 1：16～20）
- 5、私達は何をしても、必ず慎んで行わなければならない。決して主の御名を汚して、汚名を残さないように（ロマ 2：24； テモ 2：16～18）

### 二、虚名

- 1、虚名は空しい名である
- 2、洪水の後、世の人は自分の「名」を上げるために、町と塔を建てた。真の神はこの事を喜ばれなかったので、彼らの言葉を乱し、彼らを全地に散らされた（創 11：1～9）
- 3、金持ちは自分の家族や家屋を永久に残そうとして、その地を自分の名を以って呼ぼうとするが、尊さの中にあって悟ることが出来なければ、何の意義があろうか？（詩 49：6～20）
- 4、善を行うときは、故意に人に見せてはいけない（マタ 6：1～4）、祈るときは、故意に人に知らせてはいけない（マタ 6：5）；もし、人に称賛されたい心を抱いているなら、それは、虚名を貪り愛すことである
- 5、サウルは自分のために戦勝記念碑を建てた（サム上 15：12）、アブサロムは自分の名を残すために柱を建てた（サム下 18：18）、これらもまた虚名を貪ることである
- 6、世界の虚栄は、花や草の如く、終には枯れ果て、散っていく。しかし、主の言葉は

永遠に残る（ ペテ 1 : 24 ~ 25 ; ヨハ 2 : 17 ）

### 三、美名

- 1、令名は大いなる富に勝る（箴 22 : 1）
- 2、良き名は良き油に勝る（伝 7 : 1）
- 3、ルツの美名（ルツ 4 : 14 ~ 15）
  - 彼女の孝行（ルツ 1 : 14 ~ 18、2 : 2 , 18、3 : 5）
  - 彼女の貞節（ルツ 3 : 10）
  - 彼女の勤労（ルツ 2 : 2 , 7 , 17 , 23）
- 4、ベタニヤのマリヤは主のために良い事をしたので、彼女の美名は全世界に伝えられた（マル 14 : 3 ~ 9）
- 5、全て真実なこと、全て尊ぶべきこと、全て正しいこと、全て純真なこと、全て愛すべきこと、全てほまれあること、また徳といわれるもの、称賛に値するものがあれば、それらのものを心にとめなさい（ピリ 4 : 8）

### 結論：

世において人は旅人であり、寄留者である。この異郷の人生の中で、あなたは何を残したか？人生は短くも苦しい、その最後は空しいだけである。今生においてあなたは何を残して、神を栄え人に益をもたらしたか？

## 153匹の魚

序言：ヨハ 21：1～14

### 一、自分に頼れば徒労に終わり、神に頼れば満杯になる（3, 6）

- 1、自分に頼ってはいけない（箴 3：5～6；ヨハ 15：5）
- 2、真の神に頼る（ゼカ 4：6；申 8：17～18）
- 3、ペテロの経験（ルカ 5：5～11）
- 4、イサクの経験（創 26：1～12）  
チャンスを与えてもらえるように神に求める（伝 9：11）

### 二、子たちよ、何か食べるものがあるか（5）

- 1、衣食を思い煩うな（マタ 6：25～31）
- 2、明日を思い煩うな（マタ 6：27, 34；ヤコ 4：13～15）
- 3、天の父が養ってくれる（詩 23：1～2、34：9～10、37：25、55：22）
- 4、エリヤの体験（列王上 17：1～7, 8～16）
- 5、選民の経歴（申 8：1～4；ネヘ 9：20～21）
- 6、イエスは弟子の生活を気遣う（ヨハ 21：9, 13；マタ 6：26, 32～33；ペテ 5：7）

### 三、魚は多かったが、網はさけなかった（11）

もし、網がさけていたら、今までの努力が無に帰す（参考：エレ 2：13）

- 1、主の守りがなければ、全ては空しい（詩 127：1；詩 124 篇）
- 2、健康な身体を与えて下さいと主に求める（伝 5：17、6：1～2）
- 3、良い霊性を与えて下さいと主に求める（ヨハ 2）
- 4、真理を守る子供を与えて下さいと主に求める（箴 22：6；列王上 2：1～4, 12；創 18：19）
- 5、「網を繕う」仕事に心を留める（マル 1：19；コリ 9：27；テモ 4：6～10）。即ち、霊的な修行に励むことである

### 四、今とった魚を少し持ってきたさい（10）

- 1、与えるのは神である（ヨブ 1：21；ヨハ 3：27；ヤコ 1：17；詩 84：11～12、85：12）
- 2、主の力を認める（歴代上 29：11, 14；申 8：18；詩 127：1 上）
- 3、心から願ってささげる（コリ 8：12；9 章；マル 14：3～9）
- 4、先ず主にささげる（列王上 17：13；レビ 19：23～25；出エジ 13：1～2, 11～12）
- 5、恵みの上に更なる恵みを与える（主は魚を備え、パンをも備えた）（ヨハ 21：9, 13；歴代下 9：12；列王上 10：13；エペ 3：20）

**結論：**

- 1、心を固くして主に寄り頼む（詩 37：4～5、34：8）
- 2、更に深く主を愛する（ヨハ 21：15～17）

## 聖書から見たクリスチャンの職業

### 序言：

哲学者によれば、「世界には三種類の人間がいて、一つは生きていければいいと思う人、次に、もっと快適に生きていきたいと思う人、最後に意義や価値ある生き方をしたいと思う人がいる」という。あなたがどの種類の人間であったとしても、現代社会で生きていく以上、必ず働かなければならない。この職業自身が一つの「仕事」であり、仕事があるから生きていける。また、快適にも生きていけるし、意義や価値ある生き方をもちることが出来る。私達は聖書の観点から、共にクリスチャンの職業について考え、学んでいこう。

### 一、人は必ず仕事をしなければならない

仕事は人の権利であり、義務でもある；仕事即ち生活である

- 1、天の父は今に至るまで働いている（ヨハ 5：17）
- 2、アダムにも仕事があった（創 2：15）
- 3、エデンの園から離れて、更に働かなければならない（創 3：17～19）
- 4、六日間は働かなければならないと神は言う（出エジ 20：9、34：21）
- 5、働かない者は、食べてはならない（テサ 3：10）
- 6、常に努めて、自分の手で働く（コリ 4：12；テサ 4：11）  
働く事もせず、怠惰な生活を送ることが罪である（テモ 5：13；テサ 3：11）

### 二、仕事の目的

- 1、生きていくために（創 3：17～19）
- 2、家族を養うために（創 5章：子供を生み、育て、養う；テモ 5：8）
- 3、心身の健康（伝 5：12；使徒 20：33～34）。仕事と健康
- 4、人々の幸せをはかる（コリ 10：24；ピリ 2：4）。一人は皆のために、皆は一人のために
- 5、真の神を栄える（コリ 10：31；ペテ 4：11）

### 三、仕事の種類

- 1、農耕（創 3：23、9：20、26：12～13；列王上 19：19）
- 2、牧畜（創 4：2、30：31；出エジ 3：1；アモ 1：1、7：14）
- 3、漁師（マタ 4：18；マル 1：16～20）
- 4、天幕造り（使徒 18：3）、手芸
- 5、裁縫（使徒 9：39）
- 6、労働者（列王上 5：7～18）
- 7、工芸：大工（マル 2：3）、皮なめし（使徒 9：43）、銀細工（使徒 19：24～25）、

銅細工（ テモ 4 : 14 ）、鍛鉄（ 創 4 : 22 ）、名工（ 彫刻、浮き織および青糸、紫糸、  
緋糸、亜麻糸の縫取り、また機織など.....出エジ 35 : 35 ）

- 8、医者（ コロ 4 : 14 ）
- 9、公務員：取税人（ マタ 9 : 9 ）、給仕役（ ネヘ 2 : 1 ）、總監（ ダニ 6 : 1~4 ）
- 10、管理者（ 創 39 : 1~6 ；使徒 8 : 27 ）
- 11、商人（ マタ 13 : 45、25 : 14~30 ）
- 12、軍人（ テモ 2 : 4 ；ルカ 3 : 14 ；使徒 10 : 1 ）
- 13、預言者（伝道者）（ エレ 1 : 5~10 ；サム上 1 : 26~28 ；ルカ 1 : 13~17、3 : 2~20 ）
- 14、教師（使徒 5 : 34、19 : 9 ；詩 119 : 99 ）
- 15、会堂管理（ルカ 13 : 14 ；マル 5 : 22 ；使徒 13 : 15、18 : 8~17 ）
- 16、しもべ（用人）（エペ 6 : 5 ；エス 2 : 21 ）
- 17、家庭管理（主婦）（ルカ 10 : 38~41、15 : 8、17 : 35 ）
- 18、弁護士 弁護人（使徒 24 : 1 ）  
その他

#### 四、仕事の選択

- 1、正当な事業（エペ 4 : 28 ；テト 3 : 14 ）
- 2、趣味や志向に合う（流行？金儲け？両親の期待？.....）
- 3、快く担当する（ロマ 12 : 3~8 ）
- 4、社会の需要（理工、法律、文学、政治、美術、教育、農耕.....）
- 5、信仰の徳を高める（マタ 16 : 26 ）
- 6、待遇問題
- 7、その他

#### 五、仕事の態度

- 1、誠実に、正直に（コロ 3 : 22~24 ；ピリ 2 : 14~15 ；ダニ 6 : 4 , 21~22 ；申 25 : 13  
~16 ）
- 2、忠実に責務を果たす（ルカ 16 : 10 ；マタ 24 : 45~51 ；創 39 : 1~6 , 21~23 ；ヘブ 3 :  
2~5 ）
- 3、仕事を楽しむ、仕事に専念する（使徒 20 : 24 ； コリ 9 : 16~23 ；伝 3 : 22 ）
- 4、奉仕の精神（マル 10 : 45 ）
- 5、謙って学ぶ（マル 10 : 42~44 ；ピリ 3 : 12~15、2 : 3 ；ヤコ 4 : 6 ）
- 6、苦勞を厭わず、真面目に働く（箴 14 : 23、22 : 29、6 : 6~8、24 : 30~32 ）
- 7、経営者として：
  - a 公平（コロ 4 : 1 ）
  - b 優しさ（ルツ 2 : 4~16 ）

- c 信用する（創 39：6～23）
- d 脅さない（エペ 6：9；出エジ 5：10～14；列王上 12：13～14）
- e 滞納しない（レビ 19：13；ヤコ 5：～6）

#### 8、失業問題

- a 失業の不幸：経済の元が絶たれ、生計の維持が困難になり、心身ともに苦しみを受け、その結果は想像し難いものがある
- b 失業の原因：主な原因の一つとしては、自身の条件によるものと思われる。その中には、知力、体力、キャリア、技能、趣味や志向、人柄などが含まれる。次に、社会と環境の問題が挙げられる、例えば、戦争、天災、人事、体制、関係、背景、機会、供給および需要などである。人の数が仕事の量より多いこの現代では、失業問題は普遍的であり、深刻な問題である
- c 失業への対応：先見や目的もなく、ただ懸命に目の前の事を行う；飢えては食を選ばず、結果を省みない。万策尽き果てて、窮地に陥り、いっそ死んで楽になればいい；以上の諸方法は、決して上策ではない。クリスチャンが失業問題の処置については、天を恨まず、人を咎めず；憂慮することなく悲しむこともない；忍耐を学ぶ（ヤコ 1：2～4）；委ねる事を学ぶ（ペテ 5：7；詩 37：5；頼る事を学ぶ（箴 3：5～6）；固い信念を持ってしっかりと立ち、祈って仰ぎ望めば、神は必ず道を切り開いてくれる

### 六、仕事と霊的修行

主曰く：「マルタよ、マルタよ、あなたは多くのことに心を配って思いわずらっている。しかし、無くてならぬものは多くはない。いや、一つだけである。マリヤはその良い方を選んだのだ。そしてそれは、彼女から取り去ってはならないものである」（ルカ 10：38～42）。この聖句は私達に、仕事をして、決して霊的修行を忘れることなく、また、仕事を重んじて、霊的修行を軽んじてはならない事を教えている。

- 1、集会を忘れない（ヘブ 10：25；詩 122：1；ヤコ 4：8）
- 2、常に祈る（マタ 26：41；ピリ 4：6～7）
- 3、聖書を熱心に読む（テモ 3：15～17；詩 119：97～100）
- 4、十分の一をささげる（マラ 3：10；マタ 23：23）
- 5、キリストを証する（使徒 4：20；テモ 4：2）
- 6、キリストに仕える（ロマ 12：11；ペテ 4：10～11）
- 7、キリストを栄える（マタ 5：16；ペテ 2：12）
- 8、キリストのように生きる（ピリ 1：21；ヨハ 3：2～3）

**結論：**

人は怠け者になることなく、それぞれ自活しなければならない。ただ定職について、しっかりと働けば、貴賤の区別などありはしない。技術を学んで一芸に秀でれば、先人の残した巨万の財産にも勝る。

## 心の貧しい人達はさいわいである

聖句：マタ5：3

### 一、心は貧しいとは何か？

心が貧しいのは、謙った心を持ち、驕り高ぶらないことである  
パリサイ人の心は富んでいる（ルカ18：9～12）  
パウロの心は貧しい（ピリ3：12，13）

### 二、天国を得た実例

#### 1、エチオピアの高官

虚心に福音を受け入れる（使徒8：30～35）  
バプテスマを受けて神の民となる（使徒8：36～39）

#### 2、コルネリオ

虚心にペテロを受け入れる（使徒10：24，25）  
救いが全家族に臨む（使徒10：44～48）

#### 3、エペソの弟子達

聖霊を受けていないと謙虚に認める（使徒19：1～4）  
新たにバプテスマを受けて、天国を得る証拠の聖霊を賜る（使徒19：5～7；エペ1：13，14）

## 悲しんでいる人達はさいわいである

聖句：マタ5：4

### 一、悲しみとは何か？

とても辛く悲しい、声を押し殺してしくしくと泣く

- 例： 主に近寄る罪の女（ルカ7：36～38）  
子供のために神に嘆願するダビデ（サム下12：15～17）

### 二、慰めを得た実例

#### 1、ハンナ

子を産めなかったので、断食して神に哀願した（サム上1：6, 7, 10, 11）  
子を賜り、大いに慰められた（サム上1：12～20）

#### 2、ヒゼキヤ

寿命を宣告され、涙を流して神に求めた（イザ8：1）  
神に聞き入れられ、十五年の寿命を与えられた（イザ38：2～8）

#### 3、パウロ

同族と異邦人の救いのために悲しんだ（ロマ9：1～3；使徒17：16）  
主は彼を通して多くの人々を救いに導き、多くの教会を建立し、彼を大いに慰めた（ピリ1：3, 4； テモ4：5～8）

## 柔和な人達はさいわいである

聖句：マタ5：5

### 一、柔和な表現

- 1、言葉に優しさを帯びる（コロ4：6）  
ギデオンの良き模範（士8：1～3）
- 2、辱めを受けても抵抗しない（イザ50：6）  
イエスの模範（マタ26：67, 68；マタ11：29）
- 3、すぐに怒らない（箴14：29）  
モーセの例（出エジ17：1～4；民12：3）

### 二、必ず土地を受け継ぐ

- 1、アブラハム  
ロトとは争わず、肥沃な土地を彼に与えた（創13：7～11）  
神はカナン全地をアブラハムとその子孫に賜った（創13：14～17）
- 2、イサク  
ペリシテ人に侵略され、占拠されても、ひたすら譲歩した（創26：12～21）  
結果、神は彼に広大な地を与えた（創26：22）
- 3、パウロ  
彼は御働きのために、親切に人と接し、万事耐え忍んだ（テサ2：7；テモ2：24, 25）  
主が彼を天国に導き入れて、天国の嗣業を受けると深く信じている（テモ4：7, 8, 18）

### 三、柔和な方法

- 1、自分の心を自制する（箴16：32；コリ9：27）
- 2、聖霊に寄り頼む（エゼ36：26；ガラ5：23）

## 義に飢え渴いている人達は、さいわいである

聖句：マタ5：6

### 一、義を慕う意味

- 1、世には義がない（ロマ3：10，12；詩143：2）
- 2、イエスは義人である（ヨハ2：1；使徒7：52）
- 3、神の真理は義の真理である（ペテ2：5、テモ3：16）  
義に飢え渴くとは、主を慕い愛し、真理を渴望することである

### 二、義を慕うと必ず飽き足りる

- 1、シメオン  
彼は常に救い主の到来を渴望した（ルカ2：25）  
救い主に会うまでは死ぬことがないと、神の示しを受けた（ルカ2：26～32）
- 2、ザアカイ  
切実にイエスに会いたいと思った（ルカ19：1～4）  
主は彼の家に入り、彼に救いの恵みを与えた（ルカ19：5～10）
- 3、マリヤ  
彼女は日頃から神の真理を渴望した（ルカ10：39）  
主は彼女の家に入り、単独で彼女に神の真理を話した（ルカ10：41）
- 4、エチオピアの高官  
彼には義を慕う心があったので、遠路はるばるエルサレムに上って礼拝した（使徒8：27，28）  
主はピリポを遣わして、彼に福音を伝えた。彼は救いの恵みを得て、心から喜んだ（使徒8：30～39）

## 憐れみ深い人達は、さいわいである

聖句：マタ5：7

### 一、憐れみ深い人達の実例

- 1、衣服がなければ、衣服を与える（ヤコ2：15，16）
- 2、食べ物がなければ、食べ物を与える（ヨハ3：17，18）
- 3、住む場所がなければ、住む場所を与える（創19：1～3）
- 4、病気になれば、癒してあげる（マタ14：14）
- 5、怪我をしたら、治してあげる（ルカ10：33～37）
- 6、悲しんだら、慰めてあげる（ヨハ11：19）
- 7、困っていたら、解決を手伝う（ヨブ29：12）
- 8、罪があれば、その弱さに同情して手助けする（マタ9：10～13；ルカ23：34）

### 二、憐れみ深い人達は必ず憐れみを受ける

- 1、アブラハム  
暑い日差しを受ける旅人を憐れみ、彼らを家に招いて接待した（創18：1～8）  
神の憐れみを受け、神から子を与えると約束された（創18：9～14）
- 2、シュネムの婦人  
神の人エリシャに同情し、彼のために部屋を造った（列王下4：8～11）  
神の憐れみを受けて、神から息子を賜った（列王下4：12～17）
- 3、救いを得た聖徒  
全て憐れむ信者に心を尽くして応接した（マタ25：35～40）  
神の憐れみを受けて、天国へと導き入れられた（マタ25：31～34）

### 三、憐れまない人は必ず憐れみを得られない

- 1、アドニベゼク  
彼は七十人の王達の手足の親指を切った（士1：7）  
その後、同じように手足の親指を切られた（士1：6）
- 2、一万タラントの負債を持つ悪い僕  
主人は彼の負債を免じた（マタ18：23～27）  
彼は仲間の負債を免じなかったので、獄吏に引き渡された（マタ18：28～35）
- 3、人を憐れまない者  
憐れむべき信者を顧みない（マタ25：42～45）  
さばかれて、永遠の火の中に入れられる（マタ25：41）  
憐れみを行わなかった者に対しては、仮借のないさばきが下される（ヤコ2：13）

## 心の清い人達は、さいわいである

聖句：マタ5：8

### 一、清いとは何か？

清いとは心が清いことであり、邪念や私欲がないことである

- 1、貪らない（ヘブ13：5）…… 神は貪る者から離れる  
アカンが貪ったので、神はイスラエル人から離れた（ヨシ7：10～12）
- 2、嫉妬しない（ガラ5：26）…… 神は嫉妬する者から離れる  
サウルはダビデに嫉妬したので、神は彼と共におられなくなった（サム上18：7～10, 12）
- 3、驕らない（ペテ5：5）…… 神は驕る者から離れる  
一部の天使は、驕りによって、天から追放され、神から離れた（イザ14：12～15；エゼ28：17）
- 4、邪念がない（マタ5：28）…… 神は不品行をする者から離れる  
イスラエル人は不品行を行ったので、罰を受けて荒野で死に、カナンの地に入ることが出来なかった（コリ10：8）

### 二、心の清い人は必ず神にまみえる

- 1、エノク  
エノクは清い心で300年間神と共に歩んだ（創5：22）  
天に上げられて神とまみえた（創5：24）
- 2、アブラハム  
アブラハムは清い心で神に一生仕えた（ヘブ11：8～10）  
主曰く：「あなたがたは、アブラハムが神の国に入っているのを見る」（ルカ13：28）
- 3、エリヤ  
エリヤは清い心で主のために働いた（参考：ルカ1：17；列王上17：20, 21）  
御働きを終えた後、つむじ風に乗って天の家に帰った（列王下2：11）
- 4、コルネリオ  
コルネリオは清い心で神を敬った（使徒10：1, 2）  
聖霊を賜り、神にまみえる（使徒10：44～46；聖霊を得る事は、霊の中において既に神にまみえたことである ヨハ16：13～16, 22）
- 5、パウロ  
パウロは清い心で主に仕えた（テモ1：3）  
特別な恵みを賜り、よく幻を見た。また、パラダイスに引き上げられ、人間が語ってはならない言葉を聞いた（使徒18：9, 10, 23：11；コリ12：2～4）。また、主が彼を天国に導き入れられる事を深く信じている（テモ4：18；ピリ1：23）

## 平和をつくり出す人達は、さいわいである

聖句：マタ5：9

### 一、平和をつくり出す

- 1、先ず、自分が平和的になる（ヤコ3：18）
  - 人と争わない（テモ2：24, 25）
  - 人を責めない（土8：1～3）
  - 人と財物を争わない（創13：8, 9）
  - むしろ騙されて、損をした方が良い（コリ6：7）
  - 神に感化されることを求める（創32：26～29、33：1～4）
- 2、どうやって平和をつくり出すか？
  - 火にたきぎをくべてはいけない（箴26：20～22）
  - 真理をもって彼らに勧める（ヘブ4：12；ロマ12：19；コ口3：13）
  - 彼らのために祈る（ヨハ17：20～23；箴20：1、16：7）
  - 彼らの犯した過ちを負う（ピレ17, 18；参考：創44：33）

### 二、平和をつくり出す人達は神の子と称される

- 1、御子イエスは平和をつくり出す
  - 平和の君である（イザ9：6）
  - 人柄が平和的である（マタ12：19；イザ53：7）
  - 自分を犠牲にして、神と人の和解を成し遂げた（エペ2：12～19）
- 2、悪魔は平和を乱す
  - 神と人の和解を破壊する（創3：4, 5, 24）
  - 人類の平和を壊す（創4：8, 1～7；ヨハ3：12）
  - 全ての争いの源である（ヤコ3：14～16）
- 3、神の子は平和をつくり出すべきである
  - パウロは平和の福音を宣べ伝え、人に神との和解を勧めた（エペ2：17；コリ5：18～21）
  - パウロはピレモンにオネシモを受け入れるよう願った（ピレ8～20）
  - パウロはコリントの信者に、譲歩して平和を求めるように勧めた（コリ6：1～8）
  - パウロはユウオデヤとストケに思いを一つにするように勧めた（ピリ4：2, 3）
  - 彼は平和の使者であり、名実共に神の子である。私達は彼をならい、平和の使者となり、真に神の子となって、天国の栄光を受け継ごう（コリ11：1；ロマ8：15～17）

## 義のために迫害されてきた人達は、さいわいである

聖句：マタ5：10

### 一、義のために迫害される

#### 1、義のための意味

義のためとは、キリストのため、真理のため、善を行うためである（ペテ4：14～16；ペテ3：13，14）

#### 2、迫害を受ける原因

信者は世界に属さないから（ヨハ15：19）

信者は世界に従わないから（ペテ4：1～4）

悪魔が救いの恵みを阻止するから（コリ16：9；黙12：3，4）

#### 3、迫害の方法

誹謗する（マタ12：22～24；使徒28：22）

捕らえる（ルカ6：10，11；使徒5：16～18）

敵対する（マタ8：34；使徒13：6～8）

殺害する（使徒14：9，10，19、12：1～4）

### 二、迫害を受ける人はさいわいである

#### 1、天国は彼らのものであるから（マタ5：10）

エリヤは真理のために迫害を受け、終には天に上げられた（列王上19：2～4；列王下2：11）

ステパノは主のために殉じて、天国に帰った（使徒7：54～59）

#### 2、天において受ける報いが大きいから（マタ5：11，12）

パウロは主のために多くの労苦を受け、天において大きな報いを受けると信じている（コリ11：23～28；テモ4：6～8）

義のために迫害には大きな報いが伴っている（ヘブ10：32～35、11：26；黙2：10）

義のために苦しみを受ける事を喜びとする（使徒5：41）

## 空の空、空の空

聖句：伝1：2

序言：

ソロモンは豊かな経験に基づき、日の下で得た全てのものは皆空であって、風を捕らえるようなものであるという（伝2：10～11）

### 一、学問は空である

- 1、彼の学識は広く深い（列王上4：29～34；伝1：16）
- 2、知恵が多ければ、悩みも多いと彼は言う（伝1：17～18）
- 3、世の知恵は、神から見れば愚かなものである（コリ3：18～20）

### 二、財物は空である

- 1、彼は当時最も富んでいた（列王上10：14, 21, 27；伝2：7）
- 2、財物は彼の心を満たせなかった（伝5：10～12）
- 3、財宝も終には無に帰する（ペテ3：10；コリ7：29～31）

### 三、地位は空である

- 1、彼の地位は当時最も高かった（列王上4：20～21）
- 2、良い政治を行っても、人の喜びを得る事は出来ない（伝4：13～16；ガラ5：26）
- 3、栄華は長続きしない（イザ40：6～8；詩49：12）

### 四、享樂は空である

- 1、王宮に住んでも満足できない（伝2：4；列王上7：1, 10：21）
- 2、酒や肉も彼を楽しませられない（伝2：3；列王上10：5）
- 3、音楽及び全ての享樂でも彼の心を満たすことは出来ない（伝2：8；列王上11：3）  
彼は空の中において、虚しくない人生とは何であるかを悟った  
その要点として二つが挙げられる：

### 五、神を敬い、戒めを守る（伝12：13）

- 1、神は私達の造物主である（伝12：1）
- 2、神は私達のさばきの主である（伝12：14, 11：9）
- 3、神を敬う者は必ず幸福を得られる（伝8：11～12）

日の下にある全ての物は人の心を満足させる事は出来ない、全てが虚しいのである。なぜなら、人は神から離れてしまったからである。故に、神に歸し、神の戒めを守り、常に神のみふところにあって、本当の満足を得ることが出来る。

## 六、喜んで善を行う（伝3：12）

- 1、機会があるうちに人を助ける（伝11：1～2）
- 2、絶えず種をまく（伝11：6）
- 3、家族を愛する（伝9：9）

世界は虚しいと自覚し、速やかに改心して、虚しくない生活を送るべきである：神を敬い、人を愛する（伝12：1）

## 労苦の人生

### 序言：

ヤコブはパロに言った：「わたしの旅路のとしつきは、百三十年です。わたしのよわいの日はわずかで、ふしあわせで、わたしの先祖たちのよわいの日と旅路の日には及びません」（創47：9）

モーセも言った：「われらのよわいは七十年にすぎません。あるいは健やかであっても八十年でしょう。しかしその一生はただ、ほねおりと悩みであって、その過ぎゆくことは速く、われらは飛び去るのです」（詩90：10）

### 一、病気の苦しみ（ヨブ7：2～6）

- 1、自分が病気になるのは苦しい（マル5：25～26；ヨハ5：2～9）
- 2、家族が病気になるのも苦しい（マタ15：22～28、17：14～18）
- 3、イエスは私達の病気を担った（マタ8：14～17、4：23～24）
- 4、イエスを信じ、イエスに頼れば、必ず癒される（マル16：17～18；マタ8：13、9：27～29）

### 二、心の苦しみ（箴18：14）

- 1、憂いよりは心が死んだほうが良い（箴17：22、15：13）
- 2、親切な言葉は人を喜ばせる（箴12：25）
- 3、主を信じれば喜びがある（使徒16：34）
- 4、主のうちには平安がある（詩131：2；ヨハ16：33；ペテ5：7）

### 三、貧しさの苦しみ（箴19：7）

- 1、貧しいのは最も苦しい（箴14：20、15：15）
- 2、全てを主に委ね、主に頼れば、絶対に欠けることはない（詩23：1、34：9～10、55：22）
- 3、先ず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、日常の飲み食いは添えて与えられるだろう（マタ6：25～34）
- 4、満足を覚えて常に喜ぶ（テモ6：6～10；ハバ3：17～18）
- 5、真理があれば、最も喜ぶべきことである（箴15：16～17）

### 四、罪を担う苦しみ（ロマ7：24）

- 1、罪は重荷の如く、人は担いきれない（詩38：4、40：12）
- 2、罪人には平安がない（イザ57：21；箴28：1）
- 3、主を信じて釈放される（マタ11：28；ルカ5：36～39、19：1～10）

- 4、バプテスマを受けて罪が赦される（使徒2：38、22：16）
- 5、聖霊によって、人は罪と死の法則から解放される（ロマ8：1～2，13）

#### **五、地獄の苦しみ（マコ9：47～48）**

- 1、地獄の火　　火の池は最も苦しい（マタ27：46；ルカ16：19～31；黙20：10）
- 2、主を信じない人、罪を犯す人は皆行く（黙21：8；　テサ1：6～9）
- 3、信じてバプテスマを受ければ、必ず救われる（マル16：15；　テモ4：18）
- 4、天国では永遠に労苦もなく、この上ない喜びがあり、光り輝く場所である（ピリ1：23；黙21：4，11～27）

#### **結論：**

人生は労苦と悩みの連続である。ただ、主を信じ、バプテスマを受け、戒めを守り、救われて天国に入る事こそ望みであり、喜びである。

## 一言

### 序言：

「人は口から出る好ましい答によって喜びを得る、時にかなった言葉は、いかにも良いものだ」(箴15：23)

### 一、良い一言

「おりにかなって語る言葉は、銀の彫り物に金のりんごをはめたようだ」  
(箴25：11)

- 1、主は御言葉をもって全ての病人を癒した(マタ8：8, 16)
- 2、一言の「愛」をもって責める(箴17：10、27：5~9；サム下12：7~15)
- 3、親切な慰めの言葉(創50：21)
- 4、誠意ある尊重の言葉(士8：1~3；参考：士12：1~6)
- 5、優しい言葉(ルカ19：1~10)
- 6、気遣う言葉(ヨハ21：5)
- 7、証の言葉(ヨハ1：41, 46)
- 8、自ら勉める言葉(ヨシ24：15, 31)
- 9、親切な言葉はその人を喜ばせる(箴12：25)  
言葉の力は大きい(ヨブ4：4、6：25)；教を受けた者の舌をもって、疲れた者に言葉をもって助ける(イザ50：4)

### 二、悪い一言

- 1、余計な話は一言も話さない(マタ27：14)
- 2、汚れた話は一言も話してはいけない(エペ4：29、5：3)
- 3、みだらな冗談は話さない(サム下2：14；エペ5：4)
- 4、思いやりのない言葉(列王上12：12~14)
- 5、傲慢な言葉(ダニ4：30)
- 6、つぶやき、呪う言葉(ヨブ2：9；コリ10：10)
- 7、誹謗、嫉妬の言葉(民12：1~2)
- 8、偽りの言葉(使徒5：1~10)
- 9、不当な言葉(マル6：22~25)

### 結論：

あなたの言葉を慎みなさい。良い言葉は一言であろうとも惜しんではいけない。悪い言葉は一言でも口に出してはならない(箴10：19)

## 話すことと聞くこと

序言：ヤコ3：2

話すことと聞くことはお互いへの理解を深め、心を通い合わせることが出来る  
話すことと聞くことを通して、互いの徳を高め、慰め、励ましあい、疑問を解決する

多くの形がある：

- 1、喜んで話す、聞くのは嫌
- 2、喜んで聞く、話すのは怖い
- 3、喜んで話すし、喜んで聞く
- 4、話すのは怖いし、聞くのも嫌

話すと聞くは共に簡単ではない。それぞれに技術がある

### 一、話すこと

言葉は心の声である（マタ12：34～35）。なぜ話すのか？何を話すのか？どう話すのか？何時話すのか？

あなたとの話は、10年の勉強にも勝る（箴25：11）

- 1、一人一人に合ったもの（箴9：7～9）。盲目：見える？耳が聞こえない：聞こえる？
  - a 愚かな人に向かって（箴23：9；マタ7：6）
  - b 賢い人に向かって（箴17：10；サム下12：1～7）
  - c 従順な人に向かって（箴25：12；ガラ2：11～14）
- 2、時に適う（箴15：23；伝3：7；ロマ12：15）
  - a 主は姦淫を行った女と大衆に対して（ヨハ8：7，11）
  - b 主はザアカイに対して（ルカ19：8～9）
  - c ギデオンはエフライムの人に対して（士8：1～3）
- 3、要領を得る（型にはまる）
  - a 優しい言葉を使う（簡単明瞭）
  - b 正確に発音する（はっきり、軽重）
  - c 適切な速度（時には速く、時には遅く、ほどよい緩急をつける）
  - d 良い教養がある（謙虚で礼儀正しく、温和で穏やかに）
  - e 豊富な内容がある（内容が充実している）
  - f ユーモアがある（賢く、活発で、味があるように思われる）
  - g 軽はずみでくどい話を何度も繰り返さない（エペ4：29）
  - h 中傷、風刺、嘲笑してはならない（列王上12：12～14）
  - i 非難、詰問、教訓を避ける
  - j 言葉は少なく、またしっかりと的を射る。これこそ話術を理解していることであ

る（箴10：19；詩45：1～2）

## 二、聞くこと

話すことと聞くことは別の事のように思えるが、実際は一体の表裏であり。話して聞かないならば、話していないと同じであり、聞いて話さないなら、なぜ聞くのか？  
聖書曰く：「聞く耳と、見る目とは、ともに主が造られたものである」（箴20：12）

- 1、良い聞き手（喜んで聞く、辛抱強く聞く、共感して聞く……）（ロマ12：15；ルカ7：31～32）
- 2、冷静に聞く（ヤコ1：19；箴18：17、21：28）
- 3、慎重に考えてははっきりと区別する（ヨブ12：11；箴14：15；サム上24：9）
- 4、話の横から口を出さない（箴18：13；サム下12：5～6）
- 5、うわべだけの言葉に気をつける（箴26：24～25、10：18）
- 6、他人の意見を聞こうとしない（詩38：12～14；マタ26：62～64、27：12～14）
- 7、教えを受けた者の耳（イザ50：4）  
全てを信じてはいけない（箴14：15；参考：サム上24：9）

### 結論：

神は人に一つの口と二つの耳を造られた、それは、私達に控えめに話し、多く聞きなさいと教えるためである。愚かな者も黙っている時は、知恵ある者と思われる（箴17：27～28）

## 聖別されるように

### 序言：

古代、大祭司の聖なる冠には「主に聖なる者」と大きな字で刻まれている（出エジ28：36）

ナジル人に対する神の要求（民6：1～2）

選民に対する神の要求（レビ10：8～10、11：44～45）

### 一、言葉

- 1、悪い言葉を一切話さない（エペ4：29）、呪ってはいけない（ヤコ3：9～11； コリ6：10； ロマ12：14）、謗らない、陰で人の悪口を言わない（ロマ1：30）、
- 2、人の徳を高める話をする（エペ4：29）、感謝の言葉を話す（エペ5：3～4）、愛にあって真理を語る（エペ4：15）、神を賛美する言葉を話す（マタ21：16； 黙4：8～11）

### 二、行い

- 1、一つの悪も行わない（ コリ13：7）、この世と妥協してはならない（ロマ12：2； レビ18：3、30）、例えば：不品行、賭博、ダンス、酒に酔う、ケンカ、麻薬……など（ ペテ4：3）
- 2、立派な行いをする（ ペテ2：12）、光の子のように（エペ5：8～13）、世の光となり、地の塩となる（マタ5：13～16）  
彼ら（世界）の中から出てくる（ コリ6：14～18； イザ52：11）

### 三、衣服と飾り

- 1、女は男の着物を着てはならない。また男は女の着物を着てはならない（申22：5）
- 2、慎ましい身なりをし、適度に慎み深く身を飾る（ テモ2：9上）
- 3、金や真珠や高価な衣服で飾らない（ テモ2：9下）
- 4、柔和、謙虚、清く、従順、静かな心を以って飾るべきである（ テモ2：8； ペテ3：1～6）

### 四、飲食

- 1、酒を飲まない、タバコを吸わない、びんろうを噛まない、麻薬をやらない（箴20：1、23：29～35、31：4～5； 民6：3）
- 2、偶像に供えた物を食べない（ コリ10：18～22）、血と絞め殺した家畜の肉を食べてはならない（使徒15：28～29； レビ17：10～13、7：24）
- 3、暴飲暴食をしない（ テモ3：4； ペテ2：13； サム上25：36～38）

4、ダニエルの意志（ダニ1：8）とバプテスマヨハネの精神（マタ3：4）を持つ

## 五、婚姻

- 1、自由に選び、自由に付き合ってはいけない（創6：1～3）
- 2、不品行や姦淫をしてはならない（ヘブ13：4； コリ6：18）
- 3、異邦人と結婚してはならない（申7：3～4；ネヘ13：23～27）
- 4、主の内において結婚する（コリ6：14～16；創24：1～9）
- 5、真の神の按排に従う（創2：18～24；箴19：14）
- 6、自分の身体を清く尊く保つ（テサ4：3～5；ロマ13：12～14）

## 六、時間

- 1、ぶらぶらと時を過ごさない（テモ5：13；箴4：14～19）
- 2、贅沢に暮らしてはいけない（ルカ16：19）
- 3、今生を顧みてはいけない（ヨハ2：17；ペテ1：24）
- 4、時間を大事にする（エペ5：15～17；コロ4：5）
- 5、常に集会する（ヘブ10：25）；安息日を守る（出エジ28：8～11）
- 6、よく聖書を読む（テモ3：15～17；詩119：15）
- 7、絶えず祈る（テサ5：17；ルカ5：16、6：12）
- 8、主のために多く働く（ロマ12：11；コリ15：58）

## 七、金銭

- 1、浪費しない（箴18：9、21：20；テモ3：4）
- 2、ケチにならない（箴11：24、28：27、3：27）
- 3、罪を犯さない（ミカ3：11、2：1～2、7：3）
- 4、財物を以って神を栄える（箴3：9～10；歴代上29：10～17）
- 5、神のものは神に返すべきである（マタ22：21）
- 6、十分の一をささげるべきである（マラ3：10）
- 7、天に宝を蓄えるべきである（マタ6：19～21；ルカ16：9）

## 結論：

神は私達を全ての民から区別して、選民とされた（出エジ19：5～6；列王上8：53）、私達も神にならって聖なる者とならなければならない（コリ6：14～18；ペテ1：15～16；黙22：14～15）

## 聖別される道

### 序言：

人は清くなければ、神を見る事は出来ない（ヘブ12：14）  
どうすれば聖別されるのか？

### 一、水の洗い（コリ6：9～11）

- 1、人には罪がある（ロマ3：9，23）
- 2、何の罪を犯したか（伝12：13；ロマ1：28～32）
- 3、罪の終局は死である（ロマ5：12、6：23）
- 4、罪を除く元 血を流し、代わって死ぬ（ヘブ9：22；ロマ3：25；ヨハ1：29；コリ5：21）
- 5、バプテスマを受ければ罪が赦される（使徒2：38；ペテ3：21）

### 二、言葉の洗い（エペ5：26）

- 1、人は簡単に罪を犯す。信者もまた同じである（伝7：20；ヨハ1：8～10）
- 2、主の御言葉は清く、人を聖別することが出来る（詩119：9，11、19：7～9；ヨハ17：17）
- 3、故に多く集会し、多くの御言葉を聞く（ヘブ10：25；ヤコ1：22～25）
- 4、聖書をよく読み、よく覚え、神の御言葉をよく考える（コロ3：16；申6：6～9）

### 三、霊の洗い（イザ4：3～4）

- 1、人は弱い、善を知りながら行えない、悪を知りながら改められない（ロマ7：14～23）
- 2、聖霊は私達が聖となるために手助けする（テサ2：13；ロマ15：16）
- 3、上から来る力を切に求める（ルカ24：49；使徒1：8）
- 4、聖霊に満たされれば、必ず新しい人となる（サム上10：6）；故に、聖霊の感動を消してはいけない（テサ5：19）

### 四、火の洗い（マタ3：11）

- 1、火の洗いとは、神からの試練を受け、躰けられ、各方面において鍛える事である
- 2、火の洗いは最も苦しいが、罪と悪を絶つ事が出来る（ペテ4：1）
- 3、火の洗いは人を金にする（ヨブ23：10；ペテ1：7）
- 4、火の洗いは人に忍耐と従順を学ばせ、更には全き者とされ、永遠の救いの源となる（ヘブ5：8～9）

### 結論：

聖別された人は、穏やかに主を見ることが出来る（ ペテ3：14）

## 何を思うべきか？

### 序言：

人の行いは全てその思いによって支配される；立派な考えがあれば、その人はきっと正直である；心に邪念があれば、その言行もおかしい；喜怒哀楽の感情は心から発するものであり、全ての行動に表される。即ち、「誠は内に、形は外に」とある。聖書でも「彼は心のうちで勘定する人のように」（箴23：7）と書いてあるとおりである。ノアの時代の人は、「すべてその心に思いはかることが、いつも悪い事ばかりである」（創6：5）ように、犯した罪が極めて大きかったので、神に滅ぼされた。だから、信者は何を思うべきかをよく理解し、天国に向かう手引きとしよう。

### 一、神のみわざを思う（ヨブ37：14；詩143：5）

- 1、神のなされたくすしみわざ（詩78：4～7）
- 2、神には大いなる力がある（詩7：8）

### 二、神の御言葉を思う（詩1：2；ヨシュ1：8；詩119：148）

- 1、マリヤは御使の話を思い巡らした（ルカ1：28，29）
- 2、反芻する獣が清い動物であると認められる（レビ11：1～4）
- 3、キリストの言葉を、豊かに心の中に宿す（コロ3：16）

### 三、主の生涯を思う（ヘブ12：3）

- 1、主が私達のために貧しくなられた事を思う（コリ8：9；ルカ2：6，7，9：58）
- 2、私達の犯した過ちのために、人に渡された（ロマ4：25；マタ27：18～26）
- 3、主は人に嘲弄され、鞭打たれ、顔につばきをかけられ、いばらの冠をかぶせられた（マタ27：27～44）
- 4、主は十字架につけられ、血を流されて惨死した（マタ27：33～37，45～50；ヨハ19：33，34；詩22：12～16）
- 5、私達の罪のために神に捨てられ、陰府に下って死を経験した（マタ27：45～52；ヘブ2：9；使徒2：30～32）
- 6、主が刑罰を受けた事によって、私達は癒され、平安を得た（イザ53：4～6）
- 7、主を思い、主にならう（ペテ2：21～23）

### 四、聖徒の美德を思う（ピリ4：8）

- 1、パウロは言った：「わたしがキリストにならう者であるように、あなたがたもわたしにならう者になりなさい」（コリ11：1）
- 2、彼らの信仰、望み、愛などをならうためである（ヘブ11：7～39）

#### 五、悪人の終わりを思う（詩73：17，3～16）

- 1、私達に対する警告となるために（コリ10：5～11）
- 2、悪人と共に歩まないために（詩1：1）

#### 六、天の上の事を思う（コロ3：2）

- 1、天国の栄光を思う（ロマ8：18； コリ4：17，18；参考：黙21章）
- 2、主の再臨を思う（ピリ3：19～21； ヨハ3：2，3）

#### 七、自分の行いを思う（詩119：59；哀3：40）

- 1、自分の心に問いかけ、自分の考えや行いを省みる（詩77：6）
- 2、自分の終わりを思う（申32：29）
- 3、ペテロは主の言葉と自分のした事を思い起こした時、涙を流して悔い改め、死ぬまで主に尽くすと新たに目標を立てた（マル14：29～31，66～72； ペテ1：13～15）

## 時間を惜しむ

### 序言：

聖書では：「今の時を生かして用い、その人に対して賢く行動しなさい」（コロ4：5）と書いてある。古人によれば、時は金なり、故に、大事にするべきである。

### 一、なぜ時間を大事にするのか？

- 1、時間は過ぎたら、もう取り戻せない（財物はなくなっても、また、見つけることが出来る；放蕩息子にも改心する日が来る、しかし、時間だけは過ぎてしまったら、もう取り戻すことは出来ない）
- 2、時間は最も貴い（生命は最も貴い、参考：マタ16：26）、時間の累積は生命である
- 3、今は悪い時代である（エペ5：16）
- 4、賢い者の表れである（エペ5：15～17）
- 5、人には、残された歳月がどれ程あるか分からない（ルカ12：16～21；詩39：4～6）

### 二、どのようにして時間を大事にするか？

- 1、時間を無駄にしない  
終日遊び歩かない（テモ5：13）  
日々贅沢な暮らしをしない（ルカ16：19；テモ3：1,4）  
今生の事だけに忙しくしてはいけない（詩17：14～15、39：6；イザ40：6～8；ヨハ2：17）
- 2、時間を有効に使う  
永遠の命に至る朽ちない食物のために働く（ヨハ6：27）  
時間を活用して多く集会する（ヘブ10：25；ヨブ1：5）  
常に祈り、聖書を読む（マル1：35；ルカ6：12；詩119：105；使徒17：11）  
主のために多く働く（ロマ12：11；伝9：10；ヨハ9：4）  
福音を伝える、証する、教会のために働く  
全ての時間を主のために使う（ロマ14：7～8）
- 3、個人の潜在能力を発揮する  
エリヤは行き詰まった時、主の使いから与えられた水とパンを食べて力をつけ、四十日四十夜歩き続けた（列王上19：1～8）  
聖霊は人の内なる力を強くする（エペ3：16）、なぜなら、聖霊は上から来る力である（ルカ24：49；使徒1：8）  
真理は人に力を与える（参考：箴24：5）  
聖霊と真理に満たされ、大いに力を得て、もっと時間を活用して主のために働く（例えば：イエス、パウロ、モーセなどのように）

## 機会を掴む

### 序言：

ソロモンの言葉（伝9：11）

### 一、主を信じて救われる機会を掴む（コリ6：2）

- 1、人生は短く苦しい、その終わりもまた虚しい（創47：9；詩90：10）
- 2、神を見つけれない、主を信じない人には望みがない（エペ2：12）
- 3、主は罪人を救うために世に来た（テモ1：15；マタ1：21）
- 4、取税人ザアカイは、主を信じて救われる機会を掴んだ（ルカ19：8～10）
- 5、十字架の上につけられた強盗は、臨終の時の機会を掴み、悔い改めて救われた（ルカ23：40～43）
- 6、金持ちは生前悔い改める事を知らなかったので、死後後悔して止まなかった（ルカ16：19～31）
- 7、今、恵みの門が開かれている内に、主を信じて救いを得よう（ルカ13：23～25）

### 二、善を行い、人を愛する機会を掴む（ガラ6：9～10）

- 1、神はご自身の民に熱心に善を行ってほしいと願っている（テト2：14）
- 2、善とは何か？  
福音を伝えて、人を救う（箴24：11～12；マタ16：26）  
全ての人のために祈り、全ての人々が救われる事を願う（テモ2：1～4）  
この世で富んでいる人は、惜しみなく施し、人に分け与えることを喜び、自分のために良い土台を築き上げる（テモ6：17～19）  
兄弟姉妹の間では、互いに励まし合い、よく訪問して、常に互いを顧みる（マタ25：31～46）
- 3、あなたの手に善をなす力があるならば、これをなすべき人になすことをさし控えてはならない（箴3：27）
- 4、アブラハムは客人をもてなす機会を掴み、大いに祝福された（創18章）
- 5、シュネムの婦人も同じである（列王下4章）

### 三、主のために働き、賞与を得る機会を掴む（ヨハ9：4）

- 1、人生は短く、歳月には限りがあり、幼い時の内に主を記念する（伝12：1～8）
- 2、良い機会を掴み、恵みを良く尽くし、努めて主に仕える（ペテ4：10～11）
- 3、主のために労苦すれば、決して無駄に終わることなく、必ず大いなる賞与を得る（コリ15：58；マタ19：27～29；黙14：13）
- 4、熱心で、うむことなく、霊に燃え、主に仕え（ロマ12：11）、良い忠実なしもべと

なる（マタ25：21，23）

**結論：**

マリヤは機会を掴んで、香油をささげ、後世に名を残した（マル14：3～9）；ある婦人達は、良い機会を逃した（ルカ24：1～3）

## 無駄に土地をふさがない

聖句：ルカ13：6～9

### 一、ぶどう園にいちじくの木が植えてある

#### 1、いちじくの木

木を以って人と喩える（マタ3：8，10）

いちじくの木は選民を指す（エレ24：5；参考：ルカ21：29，30）

#### 2、ぶどう園

神のぶどう園はイスラエルの家である（イザ5：7）

教会は霊におけるイスラエルの家である（参考：ロマ2：28，29；ガラ3：27～29）

#### 3、垣で囲む

垣は園を守るために設けた（参考：詩80：8～12；89：40，41）

神はご自身の選民を守られる（詩34：7；ヨブ1：9～11）

### 二、多くの実を結ぶ

私達は主に選ばれ、実を結ぶために私達を遣わした（ヨハ15：16）

#### 1、くちびるの実（ヘブ13：15；詩50：14）

#### 2、聖霊の実（ガラ5：22，23）

#### 3、ささげの実（ヘブ10：16；マラ3：10）

#### 4、御働きの実（マタ25：14～23；ロマ1：13～16）

### 三、どうすれば実を多く結べるのか？

#### 1、地に落ちて死ぬ（ヨハ12：24；ロマ9：1～3）

#### 2、樹とつながる（ヨハ15：4，5，8；ルカ2：36～38）

#### 3、肥料を加える（ルカ13：8；ペテ2：1，2）

#### 4、水を注ぐ（イザ32：15；テサ2：13）

### 結論：

神の恵みに報いるために、切り取られないために、しっかりと下に根を張り、上に多くの実を結び、主の御前にささげる（イザ37：31，32）

## あなたが富んでいる時

### 序言：

聖書では、「貧しい者はいつまでも国のうちに絶えることがない」（申15：11）と書いてある。聖徒でも貧しい者はいる（ロマ15：26）；しかし、世の中には多くの富む者がいる。聖徒の中にも少なくはない。聖書に基づいて裕福について論じ、また、富んでいるときにすべき事についても論じて、互いの励ましとしよう。

### 一、裕福のきっかけ

- 1、祖先の残したもの（箴19：14、13：22；創25：5、24：35～36）
- 2、懸命に働く（箴10：4、13：4、21：5）
- 3、節約して貯蓄する（箴21：20、13：11；参考：ルカ15：11～15）
- 4、惜しみなく施す（箴11：24～25、19：17；コリ9：8～11；使徒10：1～4）
- 5、不義による裕福（箴28：8；ヨブ27：13～19；ルカ19：1，8）  
不義の富に益はない（箴10：2、13：11）

### 二、聖徒の裕福

- 1、神を恐れる者（詩112：1～3；ヨブ1：1～3；箴22：4）
- 2、神に従う者（サム上15：22）；例：アブラハム（創12：1～4、22：1～19、13：2、24：1，35）；イサク（創26：1～5，12～13）
- 3、知恵を求める者（箴3：13～16；列王上3：4～13）
- 4、神をあがめる者（箴3：9～10；コリ9：6～8）

### 三、あなたが裕福な時

- 1、あってはならない事  
驕り高ぶらない（申8：11～14；箴18：23；テモ6：17）  
贅沢や宴楽に陥らない（ルカ16：19～21；ヤコ5：5）  
自分のために財を蓄えない（ヤコ5：1～4；ルカ12：20）  
金に物を言わせて人を騙さない（箴18：11；テモ6：17；詩49：6～10）  
神の恵みを忘れない（箴30：7～9；申8：11～14）
- 2、行うべき事  
天に宝を蓄える（マタ6：20～21；歴代上29：14）  
喜んで善を行い、惜しみなく施す（テモ6：18～19；箴3：27～28；ガラ2：10）  
神は必ず祝福される（使徒10章、9：36～42；詩41：1～3）  
熱心に神を礼拝する（ヨブ1：1～5；創13：2～4；マタ6：24）  
信仰の上において富む（黙2：9；ルカ12：20～21；ペテ1：5～11）

## あなたが貧しい時

### 一、貧しさの普遍的な原因

- 1、怠惰（箴6：9～11、20：13）
- 2、浪費（箴21：17、23：21、28：19）
- 3、飢饉（ルカ15：14；詩105：16）
- 4、病気（マル5：25、26）

### 二、聖徒が貧しい特殊な原因

- 1、神から離れる（エレ17：5、6）  
エリメレクは飢饉によって聖地から離れて、モアブに移り、貧しくなった（ルツ1：1、19～21）  
イサクは神の命令に従い、飢饉のためエジプトに入る事をせず、よって、神の祝福を受けて百倍の収穫を得た。彼は富む者となった（創26：1、2、12、13）
- 2、神の御前にて悪を行う（申28：20）  
士師時代のイスラエル人の例（士6：1、6）  
神は悪人の事業を祝福しない（歴代下20：35～37）
- 3、神を愛さない（申28：47、48）  
神の宮を建てない（八ガ1：2～6）  
十分の一をささげない（マラ3：8、9）
- 4、神の試練  
ヨブは神の試練を受けて、貧しくなった（ヨブ1：6～21）  
耐える事が出来れば、神は倍にも祝福される（ヨブ42：10；ヤコ5：10、11）
- 5、主のために貧しくなる  
パウロは福音を伝えるために、自ら願って貧しくなった（参考：使徒16：37～39、22：25～27；コリ4：10～13）  
聖徒は真理を守るため、家業の損失を甘んじて受けた（ヘブ10：32～34）

### 三、あなたが貧しい時

- 1、盗んではいけない（箴30：7～9）
- 2、呪ってはいけない（出エジ16：1～3；ヨブ2：9、10）
- 3、主から離れない（ロマ8：35～37；ピリ4：12、13）
- 4、主の貧しさを思う（コリ8：9；ルカ9：58）
- 5、主の愛を信じる（ロマ8：28；コリ10：13）
- 6、勇敢にささげる（列王上17：8～16；コリ8：1～4）
- 7、霊に富むことを求める（ヤコ2：5；黙2：9；テモ6：17、18）

## アマレク人に殺された人

序言：申25：17～18

### 一、うみ疲れた人

- 1、道程が遠く、歩くのは大変（民14：1～4）  
苦難を耐え忍べば、天国の道を歩められる（ヘブ10：32～36）
- 2、重い荷物を背負っていた（出エジ12：37～39）  
重荷を脱ぎ去る（ヘブ12：1）
- 3、飲み食いが欠乏していた（民11：4～6、20：2）  
霊的な糧を充実する（コロ3：16；エペ5：18；ヨハ7：37～39）

### 二、後についていた人

- 1、霊性が幼い（コリ3：1～4）  
成長して大人になる（ヘブ5：14）
- 2、主に従わない（民32：15）  
急いで主に従う（雅1：4）
- 3、追い着こうと努力しない（ヘブ4：1～4）  
追い上げて、後退しない（ヘブ10：38～39）

### 三、弱っている人

- 1、肉体を気遣うため（ヤコ1：13～15）  
聖霊に従って行く（ガラ5：16～18）
- 2、身体が病気なため（エレ3：22、30：12～15）  
主が必ず癒される（エゼ34：16）
- 3、望みを忘れたため（出エジ3：7～8）  
忍耐して望みを待つ（ロマ8：27～28）

## 玉に瑕

### 序言：

一つの事、一人、一つの動物、それぞれに不完全の所がある

パウロは言う：ピリ3：12～15

旧約聖書の人物を何人か挙げて、その「玉に瑕」であったところを考え、私達が完全なる人となれるよう参考にしよう

### 一、ダビデ王

- 1、ヘテびとウリヤの事のほか、一生の間、主の目に合う事を行い、主が命じられた全ての事に、背かなかった（列王上15：5）
- 2、淫乱と好色になってはいけない（ロマ13：12～13）
- 3、酒に酔って罪を犯さない（創19：30～38；箴23：29～35）
- 4、王の母の戒めの言葉（箴31：1～5）

### 二、アサ王

- 1、アサ王の美点（歴代下15章を参考）
- 2、玉に瑕（歴代下16：12）
- 3、専心して神に頼る（サム上2：6；イザ26：3）
- 4、偶像に尋ねてはいけない（列王下1：2～4，17）

### 三、ヨタム王

- 1、ヨタムは神の御前において正しい行いをした（歴代下27：1～3，6）
- 2、玉に瑕（歴代下27：2）
- 3、神の宮に喜んで行く（詩122：1、48篇）
- 4、集会を止めてはいけない（ヘブ10：25）

### 四、ヒゼキヤ王

- 1、ヒゼキヤの美点（歴代下31：20～21；歴代下29～31章）
- 2、玉に瑕（歴代下32：25）
- 3、主の恵みに報いる（詩103：1～5、116：12～13、118：17；申28：47～48）

### 五、ウジヤ王

- 1、ウジヤ王の美点（歴代下26：1～15）
- 2、玉に瑕（歴代下26：16～19）
- 3、驕りは大罪である（箴16：18）、神は必ずしりぞける（ヤコ4：6）
- 4、戒めを受けたら聞かなければならない、そうでなければ、打ち敗られて助かること

はない(箴29：1、12：1)

## 六、ヨシャパテ王

- 1、ヨシャパテ王の美点(歴代下17：1～9)
- 2、玉に瑕(歴代下18：1、20：35)
- 3、見境なしに誰とでも付き合わない(箴13：20、18：24； コリ15：33)
- 4、聖別する( コリ6：14～15)

### 結論：

あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい(マタ5：48)

## 金銭を制御する道

### 序言：

「制御する」とは、統御、管理、コントロールの意味である。金銭を御するとは、金銭を管理する事であり、運用する事である。お金を稼いだり、お金を貯めたりするのは容易ではない。お金を如何に運用するか？それこそ真の学問である。

### 一、収入を見積もって、支出を定める（ルカ14：28～30）

- 1、収入額に応じて、支出額を決める。これは一大原則である
- 2、支出額は絶対に収入額を超えない
- 3、収支相殺後、清算すれば幾らか残る

### 二、十分の一をささげる（マラ3：10）

- 1、毎月必ずささげることであり、最初の支出である
- 2、主は言われた：十分の一のささげは「しなければならぬ」（マタ23：23）
- 3、聖書によれば：十分の一のささげについて、「これをもって私を試す」（マラ3：10）とあり、経験してみなさいという意味である。自分自身で経験するか？何かの事業で経験するか？または、家族の内の一一人を選んで経験するか？
- 4、これは神の家に糧を蓄え、また、あなたの家が祝福される

### 三、適宜に蓄える（箴13：11）

- 1、天には測り知れない風雲があり、人に迫り来る禍福がある；これに、備えを怠らないものは賢い人である（箴6：6～11、10：5、30：25）
- 2、収入が多ければ、多く蓄える；収入が少なければ、少なく蓄える；一般の人は収入の十分の一を蓄えるのが適宜であると思う
- 3、家長は貯蓄に基づいて目標を定める。目標が達成される、或いは期日が過ぎた時に、新しく目標を定める
- 4、全家族が貯蓄の良い習慣を身に付け、郵便局に預けたり、貯金箱に入れたり、……など、どれでも良い

### 四、浪費しない（箴18：9）

- 1、浪費と怠惰は双子である。浪費者は仕事を怠り、何もせずに飲み食いする。懸命に働き、節約する者は、少ないものを積み立てて、多くする（箴10：4）
- 2、金銭の浪費は罪である（テモ3：1～4；ヤコ5：5；ペテ2：13；ルカ16：19）
- 3、金銭を浪費し、宴楽に陥るものには、神の刑罰が下る（サム上25：36～38；黙18：4～20）

- 4、私達は神から託された金銭を管理しているので、絶対に浪費してはいけない。そうでなければ、神の御前において決算をする時、不義の家令となってしまう(マタ25:14~19; ルカ16:1~3)

#### 五、借金をしてはいけない(マタ5:26、18:34)

- 1、もし、お金を制御する事で、人が誰でも上述の点を守れば、借金の生活を送ることはない
- 2、借金のある人は、暮らしが苦しい。金を借りるのは簡単だが、返すのは難しい。借金生活を送る人は最も苦しい(列王下4:1)
- 3、どうしても借金をしなければならぬのなら、信用を守って、期日までにきちんと返済しなければならぬ。故意に延ばして、踏み倒してはいけない。借金期間中、質素儉約し、一日でも早く借金を清算して、債務のない気楽な生活を送ろう。

#### 六、良いわざを多く行う(ガラ6:9~10)

- 1、多く与えられた者からは多く求められると主は言われる。今の世で富んでいる人達は良いわざを行うべきである(ルカ12:48; テモ6:17~19)
- 2、良いわざに大小の区別はない。人にとって益となる事は全てやりなさい。例えば：貧しい人に施す(コリ9:9)、或いは独立する人を助ける、或いは教育を支援する、或いは建堂の援助をする.....などがある
- 3、ドルカスは多くの良いわざを行い、貧しい人に施し、主に祝福され、死の中から生き返り、多くの人を導いて主を信じた(使徒9:36~42)
- 4、良いわざを行う事はクリスチャンの美德であり、自分と他人の利益を共にはかり、神を栄えて、人に益を与える(箴11:24~25; 詩41:1~3)

#### 結論：

総じて言えば、お金を制御する事は一種類ではなく、何種類もあり、まとめてみれば「力に応じて、多くの良いわざを行う」(箴3:27~28)と「あなたの財産と、すべての産物の初なりをもって主をあがめる」(箴3:9~10)に他ならない。

## 王の戒め

### 序言：

イエス・キリストは王の中の王、主の中の主である。信者は生き返った後、キリスト共に王となる（黙20：4～6）。故に、信者は王である（黙5：9～10；テモ2：12）。王たるものは、崇高な地位と特殊な身分をもつ。よって、注意深く慎重に行い、失敗は許されない。何点か提起して、共に学んでいこう

### 一、情欲は理性を失わせる

- 1、ソロモン王を見て戒めとする（ネヘ13：26～27；列王上11：1～9）
- 2、王の母が子を戒める言葉（箴31：1～3）
- 3、英雄は美人を好む（箴5：7～14）

### 二、自分より優れた人に嫉妬する

- 1、サウル王を見て戒めとする（サム上18：6～9，14～15，28～29）
- 2、嫉妬は恐ろしい（雅8：6；ガラ5：19～21，26）
- 3、心からへりくだる（ピリ2：3；ロマ12：3）
- 4、バプテスマのヨハネを見習う（ヨハ3：29～30）

### 三、ひたすら自分の意志を通す

- 1、ウジヤ王を見て戒めとする（歴代下26：16～19）
- 2、ヨアシ王を見て戒めとする（歴代下25：3，14～16，17～20）
- 3、エジプトのパロは、強情で忠言を聞かず、自分の意志を通したため、終には国と民達に害を与え、地位も名誉も失った（出エジ8：19、9：34～35、14：23～28）
- 4、聖書の教訓（箴29：1、18：1）

### 四、玉に瑕

- 1、ダビデの一生は、まさに玉に瑕であった（列王上15：5）
- 2、ヨタムは全てにおいて良かったが、主の宮に入らなかった（歴代下27：2）
- 3、少しの愚痴は知恵と誉よりも重い（伝10：1）、いわゆる：「千里の堤も小さな破れ口によって崩れ落ちる」
- 4、一匹の狐によってぶどう園は壊される（箴2：15）。悪い事は小さな事でもしてはならない

### 五、晩年の節操を保てない

- 1、アサ王は即位した当初、力と思いを尽くして神を求め、憎むべき偶像を取り除いた：

また、母マアカがアシェラの憎むべき像を造ったので、彼女を太后の位から退けた（歴代下15章）

- 2、しかし、晩年の節操を保てなかった：主の宮と王の家から金銀を出して敵に贈り、人に頼って神に頼らなかった。先見者を悩まし、獄に入れ、人民を虐げ、病の時には神を求めず、医者求めた。終には病死した（歴代下16章）

**結論：**

モーセはイスラエル人に、王たる者の注意すべき点を挙げた（申17：14～20）。この言葉は正に今日の信徒への警告である。これをしっかりと守り、違反しなければ、失敗の王となる事はない。

## 断食と祈り

### 自らの祈りと助祷

#### 一、自ら祈る効果

- 1、ハンナは祈って一人の子を得た（サム上1：20，12，15）
- 2、ヒゼキヤの重病が癒される（イザ38：2～5）
- 3、ダニエルが危険から脱出する（ダニ6：10，21～22）
- 4、ヨナに明るい未来が開けた（ヨナ2：1～10）
- 5、アサ王が百万の軍隊に勝つ（歴代下14：9～12）  
神の御旨にかなって祈る（ヨハ5：14～15）  
誠をもって主に求める（歴代下16：9；詩145：18～19）

#### 二、助祷の効果

- 1、イザヤの助祷により、神はアッシリヤ軍を敗退させた（イザ37：1～7，36～38）
- 2、教会がペテロのために祈ったことにより、天使が彼を獄から救い出した（使徒12：5，1～17）
- 3、ペテロがドルカスのために祈ったことにより、彼女は生き返った（使徒9：40）
- 4、ヨブが友達のために祈ったことにより、友達の罪が赦された（ヨブ42：7～10）  
パウロは、自分のために祈ってほしいと願った（コロ4：3；エペ6：19）  
パウロは人に代わって祈る（コロ1：9；テサ1：11；テモ2：1～4）

## 主の祈りにならう

主の生涯に亘る言行は、私達の模範となるに足りる。故に、パウロは言った：「私がキリストにならう者であるように、あなたがたも私にならう者になりなさい」（コリ11：1）。ここに、キリストの祈りの様について共に学んでいこう。

### 一、日常の祈り

- 1、仕事を始める前に祈る（マル1：35，39）
- 2、仕事が終わった後に祈る（マタ14：23，14～22）
- 3、忙しくても祈りを忘れない（ルカ5：15～16）
- 4、喜ぶとき、主は祈られる（ルカ10：21）
- 5、悲しいとき、主は祈られる（ルカ22：44～45）
- 6、時には、自分で祈る（ルカ9：18；マタ14：23）
- 7、時には、弟子達と共に祈る（ルカ9：28～29）
- 8、主は時間に拘ることなく祈る
  - 朝はやく、夜の明ける前（マル1：35）
  - 夕方、夜を徹して祈る（ルカ5：12；マタ14：23）
  - 昼間、働くとき（マル6：46；ルカ5：16）
- 9、主は場所に縛られることなく祈る
  - 荒野（ルカ5：16；マル1：35）
  - 山の上（マタ14：23；ルカ9：28、6：12）
  - 園の中（マタ26：36）
  - 十字架の上（ルカ23：34，46）
- 10、主は常に人のために祈った
  - 子供のために祈る（マタ19：13～15）
  - 死んだ人のために祈る（ヨハ11：41～42）
  - 信者が一つとなるために祈る（ヨハ17：20～23）
  - 罪人のために祈る（ルカ23：34；マタ5：44）
  - 働き人のために祈る（ルカ23：46）

### 二、特別な祈り

- 1、バプテスマを受けた後は、聖霊を求める（ルカ3：21）
  - 切に、しきりに願う（ルカ11：8～13）
  - 心を合わせてひたすら祈る（使徒1：14）
- 2、断食して祈り、力を求める（マタ4：1～11）
  - イエスは御霊の力に満ちあふれた（ルカ4：14）

聖霊とは上から来る力である（ルカ24：49；使徒1：8）。多く祈り、必要なときには、断食して祈る

3、使徒を選ぶために、夜を徹して神に祈った（ルカ6：12～13）

「人」を選ぶときは、必ず多く祈る。なぜなら、神は全ての人の心を知っているから（使徒1：23～26）

アブラハムの老いたしもべがイサクのために妻を娶る（創24：12～14，26～27，52）

4、ゲツセマネでの祈り（マタ26：36）

信仰の祈り（マル14：36）

従順の祈り（ルカ22：42）

切に祈る（ルカ22：44）

根気強く祈る（マタ26：44）

**結論：**

何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈と願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい（ピリ4：6～7）

## 主がゲツセマネで祈る

### 序言：

主は生涯を通して祈りに満ちた生活を送られた。例えば、早朝、夕方に祈られ、また、山の上、海の中、荒野、聖なる宮でも祈られた。その中で最も詳しく、最も感動的なのが、このゲツセマネでの祈りである。これを以下のようにまとめた：

### 一、信仰の祈り（マル14：36）

主は言われる：「アバ、父よ、あなたには、できないことはありません」。なんと信心深いことか。

- 1、信仰がなくては、神に喜ばれることはできない（ヘブ11：6）
- 2、主は言われる：「なんでも祈り求めることは、すでになえられたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになるであろう」（マル11：24）
- 3、信仰の祈りは、大きな力を持つ（マル1：40～42；マタ9：27～30）
- 4、ただ、疑わないで、信仰をもって願い求めなさい（ヤコ1：6～8）

### 二、従順の祈り（ルカ22：41～42）

主は言われる：「父よ、みこころならば、どうぞ、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください」何という従順か。

- 1、主は人が御言葉に聞き従う事を喜ばれた。従うことは犠牲にまさり、聞くことは雄羊の脂肪にまさる（サム上15：22）
- 2、神は従順なる人に聖霊を与えた（使徒5：32）
- 3、私達が何事でも神の御旨に従って願い求めるなら、神はそれを聞き入れて下さるということである（ヨハ5：14）
- 4、パウロのように、時に無理に求めてはならない（コリ12：7～8）、それこそ神の従順なる子供である（ペテ4：14）

### 三、切なる祈り（ルカ22：44）

「イエスは苦しみもだえて、ますます切に祈られた。そして、その汗が血のしたたりのように地に落ちた。」何という切なさか

- 1、キリストの切なる祈りの表れとして：激しい叫びと涙とをもって祈った（参考：ヘブ5：7）
- 2、主は私達に「切に、しきりに願う」事を教えられた（ルカ11：8）
- 3、エリヤが切に願ったので、天から雨が降ってきた（ヤコ5：17～18）
- 4、盲人バルテマイの良き模範（マル10：46～52）

#### 5、ヒゼキヤ王の祈り（イザ38：1～5）

#### 四、根気強い祈り（マタ26：44）

「三度目に同じ言葉で祈られた。」これは根気強い（あきらめない）事の表れである。

- 1、「しきりに求めるやもめ」の喩えは、私達にあきらめないで祈り続けなさいと教えている（ルカ18：1～8）
- 2、カナンのはり人は、娘の病気を主に癒してほしいと願ったが、何度も主に拒まれた。しかし、彼女はあきらめずに願ったので、終には憐れみを受けた（マタ15：22～28）
- 3、エリヤは七度雨を求めて祈った。これこそ根気強く祈ることの良き模範である（列王上18：42～45）
- 4：聖書は言う「常に祈りなさい」（ロマ12：12）

#### 結論：

ゲツセマネでのイエスの祈りの良き模範をならい、事々に、感謝をもって祈と願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい、そうすれば、神は人知では測り知れない平安を賜る（ピリ4：6～7）

## 断食を論じる

### 一、断食の目的

- 1、神に国家の危難を取り除くことを求める  
ヨシャパテは断食して、三国の連合軍に勝った（歴代下20：1~4, 20~23, 30）  
エステルは断食して、同胞をハマンの虐殺から救い出した（エス4：1~3, 15~17, 5~10章）  
教会は神の国である。もし、危険や困難に遭遇したら、断食して、心を一つにして神の助けを求める（参考：エペ2：19；マタ9：15）
- 2、罪の赦しを神に求める  
ニネベの王とその民達は断食して罪を認め、神の赦しを得た（ヨナ1：1~2, 3：1~10）  
ネヘミヤはエルサレムのために断食して祈り、罪を認めた（ネヘ1：4~11）
- 3、真理に対して理解する事を求める  
ダニエルはまぼろしの意義を知りたいと願い、三週间断食して求めた（ダニ10：1~3, 12）  
モーセはシナイ山で二枚のあかしの板（十戒）を受け取り、四十日間パンも食べず、水も飲まなかった（出エジ34：27~28）
- 4、神から賜る力を求める  
病気を癒し、悪霊を追い出す力を求める（参考：マタ17：14~21）  
情欲を抑制する力を求める（参考：ルカ2：36~37）
- 5、神の福音の隆盛を求める  
イエスは伝道に出る前、四十日间断食した（マタ4：1~2）  
使徒は断食して祈り、働き人を遣わした（使徒13：1~3, 14：23）

### 二、断食の期間と人数

- 1、断食の期間：一日（サム上7：6）；一週間に二回（ルカ18：12）；七日間（サム上31：11~13）；三週間（ダニ10：3）；四十日間（申9：9, 18；マタ4：2）
- 2、断食の人数：個人（マタ4：2；ネヘ1：4）；数人（使徒13：1~3）；一千五百数人（エズ8：1~20）；スサにいる全てのユダヤ人（エス4：16）；ニネベの町にいる約50万人の全民衆（ヨナ3：5, 4：11）；全国の民衆100万人以上（歴代下20：1~3）

### 三、注意すべき点

- 1、形式化しない（参考：ルカ18：9~12）
- 2、故意に人に知らせない（参考：マタ6：16~18）
- 3、悪を行って罪を作らない（イザ1：13, 58：3~7）

4、祈りを疎かにしない（参考：マタ17：21；使徒13：3、14：23）

## 人物と模範

### キリストの形

#### 序言：

クリスチャンはキリストを学び、キリストにならう者となる（ コリ11：1； コリ3：18）。ピリピの手紙2章6節から11節に基づいて、キリストの形について論じ、これにならわなければならない

#### 一、主は人の子となる（ヨハ1：51；黙1：13）

- 1、権勢や名声がない家柄（マタ13：53～57）
- 2、威厳がなく、慕うべき美しさもない（イザ53：1～3、52：13～14）
- 3、孝行息子である（ルカ2：51；ヨハ19：26～27）
- 4、完全なる人の美しさがある（マタ5：48；創17：1）
  - a 罵られても口答えしない（ペテ2：21～23；マタ26：62～63）
  - b 簡単に怒らない（マタ5：22；イザ50：6）
  - c 損をしても良いと思う（マタ5：39；イザ50：6）
  - d 成す事全てが素晴らしい（マル7：37；ルカ23：39～41）

#### 二、主がしもべの形を取る（イザ42：1～4；マタ12：18～20）

- 1、へりくだる表れ（マタ11：29；ピリ2：3）
  - a 自分を誇らない（ヨハ5：41、8：50）
  - b 心からへりくだる（ペテ5：5、6；箴22：4）
  - c 人は自分より優れていると思う（ロマ12：3；ヨハ3：30；ペテ2：17）
- 2、従順の精神（エペ5：21～24）
  - a 神の御旨に従う（マタ26：39；コロ2：6）
  - b 己を捨てるわざ（マタ16：23～24）
  - c 従順を学ぶ（ヘブ5：8～9）
- 3、仕える見本
  - a キリストの精神（マル10：45）
  - b ふつつかなしもべ（ルカ17：10）
  - c 互いに仕える（ペテ4：10～11）

#### 三、神の子の形がある（ヘブ1：1～3；コロ1：15；マタ26：63～64）

- 1、聖霊に満ちあふれる（マタ1：18；ルカ3：21、22、4：1）
- 2、力に満ちあふれる（ルカ4：14；使徒10：38）、力を得られる要素としては、聖霊に

満ちあふれ、常に祈っているから

3、光り輝く顔（マタ17：1～8；ルカ9：28，29）

4、栄光の霊なる身体がある（ルカ24：13～31，36～43；ヨハ20：19～29、21：4）

**結論：**

生きることはキリストであり（今学んでいる）、死ぬことは益である（ピリ1：21）

将来必ず主に似る（ヨハ3：2）、朽ちない霊なる身体がある（コリ15：35～58）

## イエスは変わらない

聖句：ヘブ13：8

### 一、イエスはとこしえの神である

- 1、イエスは「とこしえの父である」（イザ9：6；ヨハ10：30）
- 2、主は「日の老いたる者である」（ダニ7：9）
- 3、生涯の初めもなく、生命の終りもない（ヘブ7：3）
- 4、世々限りなく生きている（黙1：18，8）
- 5、とこしえの神であるので、その全てが変わる事はない

### 二、神の国は変わらない

- 1、この地上に永遠の都はない（ヘブ13：14；参考：ダニ2：35）
- 2、神の国はとこしえの国である（詩145：13；ダニ7：14，27）
- 3、私達は「震わない国」を得た（ヘブ12：28；ルカ12：32）
- 4、主は世々限りなく支配する（黙11：15；ダニ2：44）

### 三、神の御言葉は変わらない

- 1、神の御言葉（即ち主の御言葉）は、天においてとこしえに堅く定まる（詩119：89）
- 2、主は言われる：「天地は滅びるであろう。しかしわたしの言葉は滅びることがない」（マタ24：35）
- 3、主の御言葉（福音）は永遠に変わらない。故に「真理」（ヤコ1：18；テモ2：4）、  
「真理の言葉」（エペ1：13）、「神聖な信仰」（コダ20）と称される
- 4、もし、人がこの真理を変えるなら、その人は呪われる（ガラ1：6～9；黙22：18，19）

### 四、神の愛は変わらない

- 1、人の愛は変わりやすく、頼れない（マタ24：12；テモ3：2～4）
- 2、主の愛は父母の愛に勝る（詩27：10；イザ49：15）
- 3、主は最後まで弟子を愛した（ヨハ13：1；参考：ルカ15：20～24）
- 4、神の慈しみはとこしえに残る（詩136篇；歴代上16：34，41）
- 5、私達が主を離れる恐れはあるが、主は私達を絶対に見捨てたりはしない（詩94：14；イザ54：10）

### 五、神の約束は必ず成就される

- 1、神は契約を守り、恵みを施す（申7：9）
- 2、神はアブラハムに立てた契約を成就し、彼の子孫から救世主が生まれる（創12：1～3；ガラ3：13～17）

- 3、主は信じる人に聖霊を与えると約束され、果たして五旬節の日にそれを降された。  
今、信仰に入っている人も同じように、主の約束が確かなものであると感じることが出来る（ヨハ14：16，17；使徒1：4，5；2：1～4，38）
- 4、主は再び世に来られて、弟子達を天国に連れて行き、永遠の命を享受させると約束された；主は絶対に約束を破らないと私達は信じている（ヨハ14：1～3；ペテ3：9；ヨハ2：25）

#### 六、私達も主に対して変わらない

- 1、主への信仰は変わらない（ヨハ6：66～67；ヘブ10：23）
- 2、主への忠実是不変わる（コリ4：1，2；黙2：10）
- 3、主への愛は変わらない（ロマ8：35～39；黙2：4，5）
- 4、最後までしっかりと持ち続けるなら、私達はキリストにあずかる者となる（ヘブ3：13；マタ24：13）

## 一番はじめの人 アダム

### 序言：

一番はじめの人はアダムである。凡そ「一番」というのは比較的注目されやすい。特に人類の第一番であるわけだから、考えるに値する。「創5：1～5」に基づき、一番はじめの人アダムが私達にもたらす教えとは何かを調べてみよう

### 一、神が人を創造された時（5：1中）

- 1、人類の先祖はどこから来たのか？人から生まれたのか？サルから進化したのか？
- 2、神は土のちりをもって彼を造られた（創2：7）
- 3、一人の人からあらゆる民族を造りだした（使徒17：26）
- 4、アダムは神の子である（ルカ3：38）神の子は神である（ヨハ10：34～35）

### 二、自分の形にかたどって造られた（5：1下）

- 1、神の形にかたどって、男と女を創造された（創1：27）
- 2、神は人の形となって顕れる（創18章、32：22～30）
- 3、神は世の終わりには、更に具体的に肉体をもって顕れる。それこそ世に下って人となったイエス・キリストである（テモ3：16；ヨハ1：14，18；マタ1：21～23）
- 4、神の形は新しく造られた人を指し、真理の義と聖を備えている（エペ4：21～24）

### 三、彼らを男と女とに創造された（5：2上）

- 1、神は男だけではなく、男の身体から骨と肉をとって女を創造した（創2：18～25）
- 2、先に造られたのは男であり、後に造られたのは女である（テモ2：13）
- 3、男は女のために造られたのではなく、女が男のために造られたのである（コリ11：9；創2：18，20）
- 4、男と女が結び合って、一体となる。夫婦はそれぞれの本分を尽くして、互いに愛し合い、互いに尊重する（エペ5：22～33）

### 四、神は彼らを祝福して、彼らを人と名づけた（5：2下）

- 1、神は人を祝福して言われた：生めよ、ふえよ、地に満ちよ：また、全ての生き物を治めよ（創1：28）
- 2、神は始祖を「人」と名づけた、これは神の祝福である。その他の生き物は、全て人によって名づけられた（創2：19～20）
- 3、故に、人は万物の霊長であり、真の人となるべきである（参考：エペ5：8～21；4：17～32）

#### 五、アダムが一人の男の子を生む（5：3上）

- 1、アダムが男の子を生む（父系を主とする）（参考：マタ1：2～16）。男（父親）の荣誉感と責任感を重くさせる（箴17：6、10：1）
- 2、父親の責任を果たす（創18：19；申6：6～9；箴29：17；エペ6：4；コロ3：21）

#### 六、自分にかたどり、自分のかたちのような子（5：3下）

- 1、奇妙な「遺伝」（詩51：5）
- 2、胎教に注意する（ルカ1：39～47；サム上1章；エレ1：4～5）
- 3、信仰の遺伝は更に大事である（テモ1：5）

#### 七、アダムは男の子と女の子を生んだ（5：4）

- 1、子供は神から賜る嗣業である（詩127：3～5）
- 2、子を行くべき道に従って教えるのは、父母の責任である（箴22：6）

#### 八、そして彼は死んだ

- 1、死は全ての人の終局である（伝7：2）
- 2、この戦いには免除はない（伝8：8）
- 3、人の死には、泰山より重く、或いは羽毛より軽い（歴代下21：18～20；ピリ1：21）
- 4、主の聖徒の死はその御前において尊い（詩116：15）、御働きに対する報いが彼らに従う（黙14：13）

#### 結論：

古き聖徒の信仰と美德を見なろう（ヘブ13：7；ピリ4：8）

## ヨセフの信仰

### 序言：

信仰がなければ、神に喜ばれることはない（ヘブ11：6）

信仰は全ての道徳と品行の基礎である（テモ1：5）

古き聖徒の信仰をならって、互いに励ましあいなさい。聖書に基づいてヨセフの信仰について論じ、互いの励ましとしよう

### 一、神がいることを信じる 神は人を見張る（箴15：3）

1、仕事が忠実である（創39：4, 6）

2、人が忠実である（創39：9~11）

3、神に対して忠実である（創39：9）

忠実を行う者は彼に喜ばれる（箴12：22）；忠実な人は多くの祝福を得る（箴28：20）

### 二、神の賞与を信じる

1、神が知恵を与えると認める（創41：16）

2、神が地位を与えると認める（創45：8）

3、神が子を与えると認める（創48：8~9）

あらゆる完全な賜物は、全て天の上の神から下る（ヤコ1：17；歴代上29：11~12；ヨブ1：20~21）

### 三、神が運命を司ると信じる

1、全家族の命を守るために売られたと信じる（創45：5~7）

2、エジプトの宰相になるために不当な扱いを受け、獄に入れられたと信じる（創45：8）

3、全ての遭遇は神の良き御旨によるものである（創50：19~20）

万事互いに働き、神を愛する人が益を得られるように（ロマ8：28）

全ては神から出たと信じ、黙って受ける（詩39：9；サム上2：2~9）

### 四、臨終の信仰

1、先祖は臨終の時も信仰がある（ヘブ11：20~21）

2、ヨセフは臨終の時、同胞がエジプトを出ると予見し、自分の遺骨について指示した（ヘブ11：22）

人は尊さの中において目を覚まさなければならない（詩49：20）

上にあるものを思い、目の前の事を顧みてはいけない（コリ4：17~18；コロ3：1~4）

**結論：**

古き聖徒の信仰をならい、彼らの生涯の終わりに心を留める（ヘブ13：7～8）

人の敵は自分の家にいる者である（マタ10：36）

タマルは家の中で獅子（悪人）を見た（サム下13：1～19）

## ナバルとアビガイル

経過（サムエル記上25章を参考）

### 一、ナバルの罪（ナバルの死の原因）

- 1、愚かで凶悪（サム上25：3，17）
- 2、恩義を忘れる（10～11）
- 3、悪をもって善に報いる（21）
- 4、酒宴を開いて酒に酔っていた（36）

### 二、結果

- 1、神に撃たれて死んだ（サム上25：38）

### 三、教訓

- 1、言葉は優しく（コロ4：6；箴15：1，4、14：29）
- 2、恩を忘れてはならない（詩103：3；歴代下24：20～22）
- 3、全ての人に対して善を図る（ロマ12：17～21；箴17：13）
- 4、酒宴を開いて酒に酔ってはいけない（ルカ21：34；エペ5：18；コリ6：9～10）

### 四、アビガイルの長所

- 1、非常に賢い（サム上25：3，19）
- 2、恩を知り、恩に報いる（18）
- 3、へりくだって赦しを求めた（23～31）

### 五、結果

- 1、全家族を死の危険から救い出した（サム上25：32～34）
- 2、皇后となる　後にダビデが王となったから（39～42）

### 六、教訓

- 1、知恵に基づいて行う（箴28：26；コロ4：5）。例：アベルの婦人（サム下20：14～22）
- 2、恩を思い、恩に報いる（サム下9：1）。例：ダビデはヨナタンの息子に良く尽くした（サム下9：1～8）
- 3、間違いがあれば、へりくだってその過ちを認める（ルカ18：9～14；詩32：5；ペテ5：5～6）

## シバの女王がソロモン王に会う

### 序言：

ソロモンが隆盛を極めた時代、世界の王達はソロモンの知恵を聞くために人を派遣した（列王上4：34）。シバの女王は其中でも最も特色があり、主は特別に彼女を称賛した（マタ12：42）

ソロモンは平和の君 イエスを預表する（イザ9：6）、女王がソロモンに会うことは、正に信者が如何にしてイエスにまみえるかを現し、彼女の精神と表れは、私達が学ぶに値することである

### 一、苦勞を厭わず、王に合うことを切に願った（マタ12：42）

- 1、困難で険しい道程を経て来た（参考：使徒8：27）
- 2、国務を置いてきた
- 3、金と力を費やす
- 4、一度だけの謁見を渴望する（詩42：1~2；マタ5：6；ルカ19：1~10）

### 二、自ら王と会い、心にある事を全て告げる（歴代下9：6，1）

- 1、噂しか聞いていない（ヨブ42：5）、百聞は一見にしかず
- 2、自ら王と会う（ヨハ3：24、3：1~3）
- 3、心にある事を全て告げる（サム上1：15；ペテ5：7）
- 4、全てにおいて解答を得た（歴代下9：2；ピリ4：6~7；ヨハ14：26、16：13）

### 三、恵みの言葉を聞き、更に王を深く知る（歴代下9：2~7）

- 1、聞く者はさいわいである（ルカ10：39，42；マタ13：16~17）
- 2、主の御言葉は貴い（詩119：105；テモ3：15~17；エレ15：16）
- 3、更に主を深く知る（コリ5：16；コロ2：9；エペ1：17~19）

### 四、王の前に人を導き、王の徳をほめたたえる（歴代下9：1，8）

- 1、主を愛する者は、必ず主の御前に人を導く（雅1：4；コリ5：14；ヨハ1：45；コリ9：22）
- 2、歌をもってほめたたえる（詩103：1~3）
- 3、主の恵みを伝え広める（詩116：12~13；ペテ2：9）

### 五、心から願ってささげ、多くの恩寵を受ける（歴代下9：1，9，12）

- 1、主を愛する者は、必ず心から願ってささげる（コリ8：1~3）  
アブラハムは独り子をささげた（創22章）

- マリヤは高価なナルドの香油をささげた（マル14：3～9）
- 2、心も身体も主にささげる（ロマ12：1； コリ5：14～15）
  - 3、どんな物をささげるか？（歴代下9：9）
    - 黄金（ ペテ1：7）
    - 宝石（ ペテ3：1～5）
    - 香料（マタ5：16； 黙5：8、8：3～4）
  - 4、彼女に報いた（歴代下9：12）
    - 王の心が奪われた（雅4：9； 参考：創22：16～18）
    - 贈られた品に従って報いた（参考：列王上17：8～16）
    - その他に望む物を与えた（ コリ9：6～10； マタ19：29）

**結論：**

- 王に慕われた女性（詩45：10～15）
- 私達と主の関係（ コリ11：2）
- 更に深く主を愛する（ヨハ21：15～17； コリ16：22）

## アサの信仰復興運動

### 序言：

- アサはユダ国の良い王である（歴代下14：2、15：17）
- 彼はソロモン王の曾孫である（歴代下9：31、12：16、14：1）
- 彼の信仰復興運動は、ネヘミヤと同じくらい優れた改革である

### 一、復興前の状況（歴代下15：3）

- 1、神を信じない（即ち、頼らない、従わない、恐れない）（ヘブ11：6）
  - 2、祭司がいらない（参考：ホセ4：7～9；マラ2：7）
  - 3、律法がない（即ち、忘れる、捨てる）（ホセ4：6）
- 結果：歴代下15：5～6

### 二、復興の行動

- 1、憎むべき偶像を取り除く（歴代下15：16；列王上15：11～13）  
全ての悪（情欲）を取り除く（エペ5：5；テサ4：3～5；ヨハ2：15～16）
- 2、神の祭壇を再興する（歴代下15：8）  
この祭壇はすでに壊れている（歴代下8：12、12：9）  
礼拝のことを重視する（ヨブ1：5；ヘブ10：25）
- 3、全体的に契約を立て、心を尽くして神を求めた（歴代下15：12～13）  
志を立てて、神に帰し、神に親しむ（歴代下29：10、34：31）
- 4、聖別した金と銀を神にささげる（歴代下15：18）  
時間、恵み、財産、身体を聖別して神にささげる（ロマ12：1；ペテ4：10；箴3：9；コリ5：14～15）

### 三、復興の動力

- 1、預言者アザリヤの励まし（歴代下15：8）  
預言者の話を軽んじてはならない（テサ5：19～20；ホセ11：7）  
預言者の重要性（歴代下20：20；ホセ12：13、6：5）
- 2、神の霊によって感動される（歴代下15：1）  
神の霊に頼って事を成し遂げる（ゼカ4：6）、神の霊は上から来る力である（ルカ24：49）
- 3、全ての民が心を一つにして従う（歴代下15：14～15）  
教会の隆盛は、信者が心を一つにして聖書の教えと教会の条例を遵守することにある（使徒2：46、16：4～5）

**結論：**

故に、全国の民は大いに喜び、主は四方で彼らに安息を賜わった(歴代下15:15,19)。  
教会も同じである(使徒9:31)

## ネヘミヤの信仰の模範

### 序言：

ネヘミヤが聖なる宮のためにした全ての事は、私達がならうに値する事である

### 一、身体をささげる

- 1、彼は王の給仕役であった（ネヘ1：11）
- 2、楽しく、悲しみがない（ネヘ2：1）
- 3、神のために官職から退く（ネヘ2：5～6）

私達も主のために身体をささげる（参考： コリ5：14～15；ロマ12：1；ヘブ11：24～26）

### 二、財物をささげる

- 1、給料を貰わない（ネヘ5：14～15）
- 2、自分のために土地を買わない（ネヘ5：16）
- 3、働き人をもてなす（ネヘ5：17～18）

私達も主のために財物をささげる（参考： コリ12：15；ヘブ13：16）

### 三、専心して怠けない

- 1、一心に働く（ネヘ6：1～3）
- 2、日夜休む事なく（ネヘ4：21～23）
- 3、最後まで耐え忍ぶ（ネヘ6：15～16）

私達も専心して怠けることなく、主のために働かなければならない（参考：ルカ9：59～62；伝9：10；ヨハ9：4）

### 四、神を栄える

- 1、王の承諾を得て、神に恵みを帰する（ネヘ2：8，18）
- 2、仕事が完成し、神を栄える（ネヘ6：16）

私達も全ての事において神を栄える（参考：詩115：1；歴代上16：28～29）

### 五、祈りの模範者

- 1、仕事前の祈り（ネヘ1：4、2：4）
- 2、仕事中の祈り（ネヘ4：4，9、5：19、6：9，14）
- 3、完成後の祈り（ネヘ9：1～4、13：14，22，29，31）

私達も全ての事において神に祈り、頼る（参考：箴3：5；マタ21：22；詩145：18～19）

## 小預言者の精神

### 序言：

大預言者と小預言者の区別は、その仕事の大小か、或いは品行の優劣か、または、仕事期間の長短かによるものではない

聖書解読者はその著作に基づいて文章の長短によって分けた：実際、大預言者と小預言者の品行と仕事に対する精神には、それぞれの特色があり、優劣の区別はない。十二預言書に基づき、小預言者の精神について共に学ぼう。

### 一、絶対的な従順

- 1、神の御言葉に聞き従う：これは万軍の主が言われた事である；万軍の主はこう言われる（ハガ1：2, 3, 7, 12, 2：1, 6, 7, 8, 9, 11, 17, 23）
- 2、神の御旨に従って行う（ホセ1：2~3, 3：1~2）  
イエスが良い模範を残した（マタ26：39）  
謙遜を身に付けて、互いに従順であるべき（ペテ5：5~6）  
私達を導く指導者に従う（ヘブ13：17）

### 二、愛に満ちあふれる

- 1、愛によって責める（ミカ3章；アモ3：15, 4：1~3, 6：1~11）
- 2、愛によって涙を流して代りに祈る（アモ7：1~3, 4~6；ミカ1：8~9）
- 3、愛によって多く励ます（ハガ2：4, 7~9）。多くの小預言者のメッセージの最後には、復興と望みについて語られている  
間違いを責めるのは愛するがゆえである（箴27：5, 7, 28：23；ガラ6：1）

### 三、正義を強調

- 1、ハバククが不平を述べる（1：2~4, 13）
- 2、ミカが自分と人を励ます（3：6~9, 6：8）
- 3、アモスのテーマ（5：24）
- 4、正義は人を救う；ゼパニヤのメッセージ（2：3）
- 5、ヨナ書から見た点：正義の中に愛があり、愛の中に正義がある

### 四、知識を求める

- 1、霊的な飢饉（アモ8：11~12）
- 2、民達は無知である、故に必ずつまずく（ホセ4：14下）
- 3、民達は無知である、終には滅ぼされる（ホセ4：6）
- 4、力を尽くして、神を知ることを求める（ホセ6：3, 6）

知識は力である（箴24：5）

懸命に研究すれば、必ず知識は高められる（ダニ12：4；使徒17：11）

## 五、聖霊に頼る

1、神の霊に頼って事を成し遂げる（ゼカ4：6）

2、神の霊によって力と才能が満ちあふれる（ミカ3：8）

3、神に頼って救われる（ホセ1：7）

聖霊は上から来る力である（ルカ4：49；使徒1：8）

## 結論：

預言者を尊重する。なぜなら、預言者と民族の存亡とは関わりがある（ホセ12：13，  
10；アモ3：7～8、2：11～12）

預言者は自分を重んじ、自分を愛する（ミカ3：8、7：7～8；ハガ2：4；ハバ3：17  
～19；ゼバ3：16～17）

## 信仰偉人伝

これまでに書かれた事柄は、全て私達の教のために書かれたのである（ロマ15：4）；聖書は、すべて神の靈感を受けて書かれたものであって、人を教え、戒め、正しくし、義に導くのに有益である。それによって、神の人が、あらゆる良いわざに対して十分な準備ができて、完全にととのえられた者になるのである（テモ3：16～17）。聖書に記載されている多くの古き信仰上の偉人達は、私達が見習うに値する（ヘブ6：12）。信仰上の偉人達を数人紹介し、主の内にいる兄弟姉妹への参考とし、共に励ましあっていこう

### 一、ヨシュア

神の人モーセがイスラエル人を導いてパロの支配から逃れ、エジプトを離れて紅海を渡り、荒野を渡り、カナンの入り口に着いた。その後、モアブの地ピスガの山頂にて安らかに眠った（申34：1、5）。モーセの死後、神はヨシュアを立ててイスラエル人のリーダーとした。彼はモーセの仕事を引き継ぎ、民達をカナンの地に連れて行った（ヨシュ1：1～2）。なぜ、ヨシュアは神に重用されて、民達のリーダーとなれたのか？

#### 1、ヨシュアはアマレク人との戦いに勝った

イスラエル人が荒野のレピデムに来た時、アマレク人との戦いが起きた。ヨシュアはモーセに派遣され、兵を率いて出陣し、モーセは山上で祈った；神の助けと二人の協力により、結果アマレク人に勝つことが出来た（出エジ17：8～13）  
アマレク人は神の敵であり、悪魔から来る情欲を表す（出エジ17：16；ガラ5：16～17）。私達は祈りを通して、聖霊の助けを得て、情欲を治めなければならない。それによって、神に重用されるのである（出エジ17：11；ロマ8：13；テモ2：21）

#### 2、ヨシュアはモーセの忠実な助け手であった

ヨシュアはモーセの良き助け手であり、常にモーセに従っていた（出エジ24：13）、彼はとても忠実で、いつも幕屋から離れなかった（出エジ33：11）  
私達が神の仕事に忠実に果たす事が出来れば（ルカ16：10；コリ8：22）、必ず神に重用される

#### 3、ヨシュアには強い信仰があった

モーセはカナンの地を偵察させるために十二人を遣わした時、十人は敵を恐れ、更に悪い情報を報告した（民13：31～33）；しかし、彼は敵の大きさや強さを恐れず、勇敢に民達を励まし、神に頼ってカナンに進軍した（民14：4～10）  
信仰が強い事は、神に重用される者の必要条件である（ヘブ11：27；ヨシュ1：6～7）

#### 4、ヨシュアは心の中に聖霊がある

ヨシュアはモーセの按手を受けて、知恵の霊に満ちていた。彼は仕事の能力に優れ、民達も喜んで聞き従った（民27：18～20；申34：9）

聖霊に満たされる事は、神のために働く者として絶対に受けなければならない；聖霊に満たされる事によって、力を付け、神のために大いに働く事が出来る（ルカ24：49；使徒1：8、4：8、6：5、10）

ヨシュアは百十歳で死に、彼の嗣業の地のうちに葬られた（ヨシュ24：29～30）

## 二、サムエル

サムエルは最後の士師であり、イスラエル建国後の最初の預言者である。彼は預言者だけでなく、祭司でもあり、更には偉大なる軍事家、政治家、宗教家でもあった。私達は彼の一生を調べ、私達が見習うに値する多くの美德が見つかる事であろう

### 1、幼少時

サムエルはエルカナの息子で、母はハンナである。彼女には子がいなかったため、神の御前で心にある事をすべて告げ、敬虔に願って祈った；結果、神に聞き入れられ、サムエルを得た（サム上1：1～20）

サムエルの意味は「神は聞こえた」である

サムエルが乳離れした後、ハンナはシロにある主の宮に連れて行き、祭司エリの前で永遠に神に仕えろとささげた（サム上1：24～28）

サムエルは幼い時から、神を敬い（サム上1：28）、神に仕える事を知っていた（サム上2：11、3：1）。毎朝主の宮の門を開け（サム上3：15）、掃除して片付けた祭司エリの二人の息子は悪人で、主を知らなかった（サム上2：12）；しかし、サムエルは彼らの悪行を学ばなかったため、神と人にますます愛された（サム上2：26）

サムエルがわらべの時、神の啓示が彼に臨み、エリの家が滅ぼされると予言する（サム上3：1～15）

幼い内から神を敬う事を学び、造物主を記念する（詩119：9、11；伝12：1）

### 2、成年時

サムエルは成長した。主が彼と共におられて、その言葉を一つも地に落ちないようにされた（サム上3：19）。例えば：彼がエリの家にした予言は、時が来て本当に的中した（サム上4：12～21）

ダンからベエルシバに至るまでの全てのイスラエル人は、主が御言葉を全てサムエルに啓示した事を知った。サムエルは主の御言葉をイスラエル全地に伝えた（サム上3：20～21）

サムエルはイスラエル人の信仰を復興させ、民達に偶像を取り除き；一心に主に帰し、主に仕えるよう呼びかけた；結果、神によってイスラエル人はペリシテ人との戦いにおいて勝利し、平和を得た（サム上7：1～14）

### 3、老年時

サムエルは老いるまで真理を守り、民達を苛めることなく、虐待することもなく、賄賂を受け取ったこともない（サム上12：1～5）

年を取った後も、更に懸命になって民達を教え諭した；また、民達のために絶えず祈り続けると約束した（サム上12：6～15，23）

サムエルが年老いた時、二人の息子を立てて士師とした。しかし、二人の息子は彼の道を歩まなかったため、民達は王を立てるようサムエルに求めた。よって、サムエルはギルガルでサウルを王として立てた（サム上10：1、11：14）

その後、サウルは命に背いて罪を犯し、サムエルは厳しく叱責した（サム上13：11～15）。神はサウルを捨て、ダビデを王と立てるため、サムエルをベツレヘムに遣わした（サム上16：1～13）。このようにサムエルは老年まで神に重んじられた。サムエルが死んだので、イスラエルの人々はみな集まって、彼のために非常に悲しみ、ラマにあるその家に彼を葬った（サム上25：1）

サムエルの一生を総合的に見ると、幼年から成年、成年から老年に至るまで、全て神の事を重んじ、終生変わる事なく真理を守った。これはなかなか出来る事ではないし、尊敬に値する事である；民達は彼の生涯の業績を模範とし、共に学び、励まし、神に喜ばれ、祝福されるように

## 三、バルナバ

バルナバは使徒時代において重要な働き人であり、彼からは学ぶべき多くの模範があり、私達が調べるに値する

### 1、バルナバが主に帰する

バルナバはクプロ生まれのレビ人で、元の名はヨセフであったが、使徒からバルナバ（慰めの子の意味）と呼ばれた（使徒4：36）。彼は五旬節の後に主に帰した彼は富豪であったが、主を信じた後、主を愛するため、自分の畑を売って、教会にささげた（使徒4：37）

その後、身体をささげて主のために働き、主が彼を重用して彼と共に働き、重要な働き人となった（使徒11：30、13：2～4）。また、彼は使徒と称された（使徒14：14）

### 2、バルナバは良い人である

彼は慰めの子であり、人に勧め、人を慰めることを得意とし、多くの人に益をさせた

彼は人をよく観察し、高く評価した。また、後輩をよく抜擢した。使徒パウロは彼が抜擢した主の働き人である（使徒9：26～29）。バルナバの抜擢がなければ、パウロに今日の成功はない。また、彼はマルコをも助けた（使徒15：36～40）；その

後、マルコはパウロの良き助け手となった

彼は清く、優れた人物であり、人々から尊敬されていた。パウロとバルナバがルステラで足の不自由な男を癒して、歩けるようにした。群衆はパウロをヘルメス商業の神と呼び、バルナバをゼウス 最高神と呼んだ（使徒14：8～12）

### 3、バルナバが聖霊に満たされる

バルナバは聖霊に満たされた；故に、彼は全財産と自分の身体をささげ、主のために働いた（使徒4：37）

彼は聖霊に満たされた；故に、多くの人を導いて主に帰させた（使徒11：24、13：2～4，12）

彼は聖霊に満たされた；各地で弟子の信仰を強くした。彼は一年間アンテオケ教会で牧養し、大いなる益をもたらし、このアンテオケで初めて、弟子たちがクリスチャンと呼ばれるようになった（使徒11：21～26）

彼は聖霊に満たされた；故に、彼には大きな信仰があり、大胆に神の御言葉を語り（使徒13：46）、多くのしるしと奇跡を行った（使徒14：3，7～13）

言い伝えによれば、バルナバは主のために殉教した

## 四、新約のマリヤ

新約聖書に記載されているマリヤは六名いる：

イエスの母親マリヤ（使徒1：14）

マグダラマリヤ（ルカ8：2）

ベタニヤマリヤ（ルカ10：39）

ヤコブとヨセフの母親マリヤ（マタ27：56）

マルコの母親マリヤ（使徒12：12）

ローマにいる女信者マリヤ（ロマ16：6）

六名のマリヤは非常に主を愛し、人を愛された女信者である。私達は彼女達の信仰、品行について調べ、見習う模範としよう。特に主の内にいる姉妹達は、更に彼女達を見習わなければならない。ここでは、三名を取り上げ、共に学んでいこう

### 1、イエスの母親マリヤ

カトリック教会では、イエスの母親マリヤを聖母として敬っているが、これは間違っ  
た信仰である。彼女は人であり、良き女信者であった。私達は彼女の人柄、品行を調べ、  
見習うべきである。しかし、それは彼女が敬われる事によるものではない。これは、私  
達が特に注意する点である。では、彼女にはどのような美徳があるのか？

彼女は神の御言葉を繰り返し考えた：御使いが彼女に、あなたは身ごもって子を  
産むと言った（ルカ1：29）時：御使いが羊飼いに話した事、また、彼らの出会っ  
た事を聞いた時（ルカ2：19）：イエスが12歳の時、主の宮で教師達と真理につい

て論じ、イエスが彼女に話した時（ルカ2：51）：マリヤは神の言葉を全て繰り返し考えた

聖書では、神の掟を喜び、昼も夜も思う人はさいわいである（詩1：2）；と記されている；また、律法の書をあなたの口から離すことなく、昼も夜もそれを思い、その内に記されていることを、ことごとく守って行わなければならない。そうするならば、あなたの道は栄え、あなたは勝利を得る（ヨシュ1：8）とある。故に、私達は神の御言葉をよく読み、よく聞き、心に留めて、昼も夜も思わなければならない（コロ3：16）

彼女は神の御言葉を信じて従った：御使いがあなたは身ごもって子を産むと彼女に言った時、彼女は「わたしは主のはしためです。お言葉どおりこの身に成りますように」と答えた（ルカ1：38）；故に、エリサベツが彼女に言った：「主のお語りになったことが必ず成就すると信じた女は、なんとさいわいなことでしょう」（ルカ1：45）

神から出た言葉に力が伴わないものはない（ルカ1：37）、また、空に終わるものもない（テモ2：13）。故に、私達は聖書の言葉を信じて従えば、必ず神の祝福を得ることが出来る

主の中にあって互いに交流する：マリヤが良き知らせを得た後、すぐにエリサベツと語り合った。エリサベツもこの事のために神に感謝し、神を讃美した；彼女達が話した事は、全て信仰に満ちた話である（ルカ1：39～56）

私達は清い心をもって主を呼び求める人々と共に、義と信仰と愛と平和とを追い求めなければならない（テモ2：22；箴18：24）

彼女は律法を守り行う：主が生まれてから8日後、彼女は律法に従って子供に割礼を施した；更に、律法に従って初めて生まれた子供を神にささげた（ルカ2：21～24）

神の律法を守り行う者はさいわいである（ヤコ1：22～25；詩119：1～2）

マリヤは子供の宗教教育を重視した：彼女は毎年幼いイエスを連れてエルサレムに上って、祭礼を守った。イエスが十二歳の時、聖書の言葉を多く理解し、教師達の話の聞いたり、質問したりした。また、天の父のことを思い、両親にも従った（ルカ2：42～51）それゆえ、イエスはますます知恵が加わり、背たけも伸び、そして神と人から愛された（ルカ2：52）。これらは全てマリヤの良い教育による結果である。

私達も自分を慎み、また、志を立てて主のために、主の内にいる小羊を教え導かなければならない。彼らをその行くべき道に従って教えれば、年老いても、それから離れることはない（ヨハ21：15；箴22：6）

主が昇天された後、マリヤはまだ健在であった：彼女は熱心に集会し、心と思いを一つにして信徒と共に聖霊を求めた（使徒1：14）

## 2、マグダラのマリヤ

マグダラのマリヤは悪魔に憑かれ、病気に患わされたかわいそうな人である；その後、イエスが彼女の身体から七つの悪霊を追い出した（ルカ8：2）、故に、彼女はイエスを信じた。

恵みを受けた後、彼女は他の婦人たちと一緒に、自分の財産をイエスと弟子達にささげた（ルカ8：3）

イエスが十字架につけられた時、彼女と他の婦人たちは、十字架の下にたたずんでいた（ヨハ19：25）

主の身体が葬られた後、彼女とヤコブの母マリヤは、墓の前に向かって座っていた（マタ27：61）

主がよみがえる日の朝、彼女はイエスに塗るために香料を準備した。その日の朝、よみがったイエスはまずマグダラのマリヤの前に顕れた（マル16：1, 9）

マグダラのマリヤは主の大いなる恵みを受けた後、主の恵みに報いることを日夜思い続けた；私達も恵みを受けた者であり、どのようにして主に報いるべきか？私達は力を尽くして主のために多く働き（コリ15：58）、多くの人を導いて主に帰させ、主の恵みに報いる（詩116：12～13）

## 3、ベタニヤのマリヤ

彼女には求道の心があった。イエスが彼女の家に行った時、彼女はいつも主の足元に座って御言葉を聞いていた。主は言われた：マリヤは良い方を選び、それは、彼女から取り去ってはならない（ルカ10：38～42）

神のみ言葉はわが足のともしび、わが道の光（詩119：105）；私達のたましいの糧（マタ4：4）；私達の霊的な武器（エペ6：17）；私達を聖別して、行いを清める（詩119：9, 11；ヨハ17：17）。故に、主の御言葉を慕い求めて（ヨブ23：12）、多く読み、多く考え、多く聞き、多く記し、多く行う；これが良い方であり、誰も取り去ることは出来ない

彼女には弟を愛する心があった。マリヤにはラザロという弟がいて、病気になって死んでしまった。彼女は非常に弟を愛していたので、弟の死のために主に哀願した。主は彼女の涙に感動し、死んで4日も経ったラザロをよみがえらせた（ヨハ11：32～44）

パウロは言った：「わたし自身、兄弟たち、つまり肉による同胞のためならば、キリストから離され、神から見捨てられた者となってもよいとさえ思っている」（ロマ9：3）。あなたの両親、兄弟、姉妹、親戚、友達、クラスメート達は、主を信じているか？あなたは彼らのたましいの救いについて悲しみ、主の恵みを与えられるよう求めたか？主は言われた：「悲しむ人々は、幸いである、/その人

たちは慰められる」(マタ5:4)願わくは、私達が彼らの救いについて祈り、主の救いの恵みが彼らに臨まれ、共に天国で永遠の幸せにあずかる事が出来るように。

彼女には主を愛する心がある。イエスがベタニヤのシモンの家において、食卓についた時、マリヤは高価で純粋なナルドの香油をイエスの足に塗った。すると、家は香油の香りでいっぱいになった。イエスは言われた：「彼女は私に良い事をした。彼女はできる限りの事をしたのだ。だから、全世界のどこでも、福音が宣べ伝えられる所では、この女のした事も記念として語られるであろう」(マル14:3~9)

マリヤは主のために良い事をして、永く後世に名を留めた；あなたは主の身体(教会)のために良い事が出来るか？私達が自分の力を尽くして、教会のために何が出来るのか？よく考えてみよう。辞退しない、遅延しない、自分の力を尽くして、教会のために多く働けば、主は必ずあなたに報いる。

## 五旬節前後のペテロ

ペテロは五旬節前（聖霊を受ける前）、明らかに多くの欠点があった；しかし、五旬節後（聖霊を受けた後）、一つ一つ改めた。前後ではまるで別人のようである。聖書に基づいて、五旬節前後のペテロの人柄を比較し、その得失について調べよう。また、その経験及び啓示によって得た尊い教訓を参考にして、霊的修行に励もう

### 一、信仰

前：疑いが多く、信仰が薄い（マタ14：31，25～30）

後：疑わない、信仰が深い（使徒2：14，12，16、4：8，12）

前：信仰が小さく、力も小さい（マタ17：20，14～21）

後：信仰が大きく、力も大きい（使徒4：33、5：12～16、3：2～8、5：1～10）

前：遠くから主についていた（マタ26：58）

後：勇敢に前に進む（使徒2：14、3：12、4：8）

神に委ねる信仰があった（参考：使徒12：1～11）

教訓：

信仰にかたく立って、悪魔に抵抗する（ペテ5：8～9）

神はあなたがたをかえりみているから、自分の思いわずらいを、いっさい神にゆだねるがよい（ペテ5：7）

主の約束は未だ実行されていないが、疑うことなく信じて待つ（ペテ3：3～9）

信仰は最も貴い：信仰によって神の性質にあずかる者となる（ペテ1：1，4～5）

あなたがたの信仰はためされて、火で精錬されても朽ちる外はない金よりもはるかに尊いことが明らかにされ、イエス・キリストの現れるとき、さんびと栄光とほまれとに変わるであろう（ペテ1：7）

### 二、心の思い

前：人のことを思う（マタ16：23，21～26）

後：神の御旨に従う（使徒4：19～20、5：29）

聖霊の導きに従う（使徒10：19～21，23～24）

教訓：

真理に従い、たましいを清める（ペテ1：22）

善を行って苦しむ事が神の御旨であると知る（ペテ3：17）

神の御旨に従って神の羊の群れを牧す（ペテ5：2）

神の御旨に従って苦しみを受ける人々は、善をおこない、そして、真実であられる

創造者に、自分のたましいをゆだねるがよい（ペテ4：19）

キリストは神の御旨に従って私達のために苦しみを受け、私達のために模範を残された；もし、私達が神の御旨に従うなら、善を行って苦しみを受け、しかもそれを耐え忍んでいるとすれば、これこそ神によみせられることである（ペテ2：21，20）

### 三、品行と道徳

前：驕り高ぶっていた：誰が一番偉いか争っていた（マル9：33～34、10：41，35～45）

後：へりくだっていた：栄光を神に帰した（使徒3：12，16、4：8～10）；人の跪き拝むことを受けない（使徒10：25～26）

前：性格が粗暴である：容易に怒りやすく（マル10：41）、更には剣を振るって人を殺そうとする（ヨハ18：10）

後：性格が柔和である：咎められても怒らない（ガラ2：11；ペテ3：15）、辱めを受けて鞭打たれても、むしろ逆に喜んだ（使徒5：40～41）

#### 教訓：

謙遜を身につけて、互いに従順となりなさい；神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだる者に恵みを賜うからである（ペテ5：5～6）

各人は与えられた恵みに従って互いに仕える（ペテ4：10）

心をひとつにし、同情し合い、兄弟愛をもち、あわれみ深くあり、謙虚でありなさい（ペテ3：8）

優しい言葉をもって各人に弁明できるようにする（ペテ3：15）、柔和で、淑やかな霊という朽ちることのない飾りを、身につけるべきである（ペテ3：4）

キリストは罵られても、罵り返さず、苦しめられても、脅かすことをせず、その口には偽りが無い（ペテ2：22～23）

このように、立派な行いをすれば、主の御名を栄えることが出来る（ペテ2：12）、人を感化して信仰に至らせる（ペテ3：1～2）、祝福を受け継ぐことが出来る（ペテ3：9～12）

### 四、祈り

前：祈りを怠ける（マタ26：36～45）

祈りを軽んじたので、三度主を知らないと言う（マタ26：69～75）

後：努めて祈った（使徒3：1、10：9）、心と意思を一つにして切に祈った（使徒4：24～31）、また、常に他の人のためにも祈った（使徒8：14～17）

しきりに願って祈り、聖霊に満たされて、主の御名を大いに語る（使徒2：1～4，14、5：26～32）

教訓：

万物の終りが近づいている。だから、心を確かにし、身を慎んで、努めて祈りなさい（ペテ4：7）

主の目は義人たちに注がれ、主の耳は彼らの祈にかたむく（ペテ3：12）

夫たる者、知識に従って妻と共に住み、彼女を尊重しなければならない。それによって、あなたがたの祈が妨げられないためである（ペテ3：7）

キリストのために試練や迫害を受けても、驚き怪しむ事なく、苦しみにあずかるほど却って喜ぶべきである。キリストの名のためにそしられるなら、あなたがたはさいわいである。その時には、栄光の霊、神の霊が、あなたがたに宿るからである（ペテ4：12～14）

主の寛容は救のためであると思う（ペテ3：15）

以上の調べによって、聖霊がペテロに対する信仰、心の思い、品行と道徳、祈り……など、極めて大きな影響力であると深く知った。例えば、ペテロは自分を証して言った：「神は尊く、大いなる約束を私達に与えられている。それは、あなたがたが、世にある欲のために滅びることを免れ、神の性質にあずかる者となるためである」（ペテ1：4）。聖書によれば、「主の霊があなたの上にもはげしく下って、あなたは彼らと一緒に預言し、変って新しい人となるでしょう」（サム上10：6）とある。神は聖霊を私達に与え、石の心を除いて、肉の心を与え、神の掟を守って、これを行うことができるようにするためである（エゼ36：26～27）。私達もペテロと同じように多くの弱さや欠点がある。願わくは、大いに聖霊に満たされる事を祈り、パウロと同じように、聖霊によって新たにされ（テト3：5）、清くなって、救いにあずかる事が出来るように（テサ2：13）

## 好青年テモテ

聖書の中には多くの偉大な人物がいる。彼らの信仰、行い、愛……は全て私達の良き模範となれる。新約聖書におけるテモテという好青年を挙げて、共に学ぼう

### 一、テモテの家庭

- 1、ルステラの人（使徒16：1）  
パウロが第一回目の伝道の旅に出て、建てた教会であり、テモテはこの時、主に帰したと思われる（使徒14：8～23）
- 2、母親は信者のユダヤ婦人で、父親はギリシャ人であった（使徒16：1）
- 3、彼には信仰の大きい祖母がいる（テモ1：5）

### 二、テモテの信仰と行い

- 1、彼は品行が良く、ルステラとイコニオムの兄弟達の間で、評判のよい人物であった（使徒16：2）
- 2、彼の心には偽りのない信仰がある（テモ1：5）  
信仰があれば神に喜ばれる（ヘブ11：6）  
真実の信仰であり、形式や外見ではなく、試練に耐えられる（ヤコ1：3～4）
- 3、彼は主に忠実であった（コリ4：17）、与えられた恵みを上手に使う（テモ4：14；テモ1：6）、力を尽くして主のために働く（コリ16：10～11；ピリ2：21～22）
- 4、彼はパウロと伝道の旅に出て、色々な苦難や迫害を経験した（使徒16：3～4）、しかし、彼は恐れることなく、却って主のために投獄され、苦しみを受けた（ヘブ13：23）

### 三、誰がテモテを育てたのか？

- 1、彼の母親と祖母（テモ1：5）  
彼が幼い時から聖書に親しんだのは（テモ3：15）、二人の教えと導きによるものである（参考：箴22：6）  
若い時は、主の御働きのために、労力を惜しむことなく奔走した（使徒16：3～4）
- 2、使徒パウロの指導  
パウロはテモテを自分の子のように接した（コリ4：17；テモ1：2）；テモテもパウロを父親のように接した（ピリ2：22）  
彼を連れて伝道の旅に行き、多方面に亘って彼を指導し、訓練し、励ました（使徒16：3～4）  
いつでも彼を抜擢し、常に彼を高く評価した（コリ16：10～11、4：17）

常に手紙を以って励まし、注意した（ テモ4：12～16； テモ1：6～8、2：1）  
常に彼のために祈る（ テモ1：3～4）

願わくは、主の内にいる兄弟姉妹がテモテのように良い信仰と行いがあるように、また、主の内にいる両親や兄達がテモテの母親と祖母を見習うように、更に、主の内にいる長老、執事がパウロを見習って、多くの青年を育て、主の教会が栄えるように。

## 聖書にある模範的な婦人

### 序言：

聖書には多くの婦人や彼女達の事跡について挙げられている。私達は詳しく読み上げ、これらの事について考える時、彼女達の中には、私達が見習うに値し、私達の模範となるものを見つけることが出来る。聖書の中から四人の婦人を挙げ、各姉妹達と共に学んでいこう（ピリ4：8）

### 一、サラ 従順な妻

- 1、夫に仕える（ペテ3：6）
- 2、彼を主と呼ぶ（ペテ3：6；創18：12）  
従順は美德である（エペ5：22～24，33；ペテ3：1～6）

### 二、ヨケベデ 偉大な母親

- 1、信仰によって子を産み、子を隠し、子を育てた（ヘブ11：23～28；出エジ2：1～10）
- 2、類まれなる子供がいる（民26：59；出エジ15：20；ヘブ5：4；出エジ11：3）
  - a 子供は嗣業である（詩127：3～5）
  - b 母の愛は最も偉大である（イザ49：15；雅8：5）
  - c 母の教えは最も貴い（箴22：6、31：1～9）

### 三、ロイス 尊敬できる女信者

- 1、女を産み、女を育てる（テモ1：5）  
女がいれば、万事足りる（創24：60；詩144：12）
- 2、信仰の遺産（テモ1：5；3：14～15）  
平凡、偉大（創5：3～5、マタ16：26）

### 四、プリスキラ 良き助け手

- 1、夫の良き内助（使徒18：1～3，24～26）  
賢い妻は夫の冠である（箴12：4、14：1、31：10～31）
- 2、伝道者の良き同労者（使徒18：1～3，24～26；ロマ16：3～5；テモ4：19）  
婦人たちは神の国を建てる良き助け手である（詩68：11；ルカ8：1～3；出エジ35：21～29）

### 結論：

年老いた女たちにも、同じように、立ち振る舞をうやうやしくし、人をそしったり大酒の奴隷になつたりせず、良いことを教える者となるように、勧めなさい（テト2：

3)

若い婦人に教える時、自分を検討する：つまり、慎み深く、純潔で、家事に努め、善良で、自分の夫に従順で、良妻賢母となる。そうすれば、彼女達の信仰を誇る人はいない(テト2：4~5)

## 記念に値する小人物

聖書の中には尊敬に値し、見習う大人物が多くいる。例えば：神の人モーセ、指導者ヨシュア、士師デボラ、ギデオン、預言者サムエル、エリヤ、エリシャ、国王ダビデ、皇后エステル、律法学者エズラ、使徒ペテロ、パウロ……などなど。彼らが世にいた頃は、功績を立て、言説を立て、徳を立てた。彼らの偉大な功績は、聖書に詳しく記載され、私達も常に彼らの美点を述べて、記念した。しかし、聖書の中にはまだ多くの小人物がいる。彼らの働きは大人物のような凄まじいものはないし、彼らの功德は聖書にも大きく取り上げられていない。しかし、彼らは真に記念に値する一群である。大人物の働きは、直接的或いは間接的に彼ら小人物の助けや影響を受けている。だから、彼らは本当に記念に値する無名の英雄である。

今日、神の教会においても類似した状況が見られる。一般信者は教会で実際に働いている長老、執事、伝道者、宗教教員……などの人を記念に値する人物だと認めている；しかし、無名の平凡な信者の働きや、品行、行いは、往々にして疎かにされるが、これは、間違った考えである。神は人に対して偏り見ず、必ず各人の行い、各人の表現に従って各人に報いる；聖書では、「神は不義なかたではないから、あなたがたの働きや、あなたがたがかつて聖徒に仕え、今もなお仕えて、御名のために示してくれた愛を、お忘れになることはない」（ヘブ6：10）と記載されている。新約、旧約聖書に基づいて、記念に値する小人物を数人挙げて、共に見習う参考としよう。

### 一、アブラハムの老いたしもべ

アブラハムは非常に裕福で、多くのしもべとつかえめがいた（創12：16、16：1）、その中に家業を管理する最年長のしもべ（エリエゼルかもしれない）がいる（創24：1～2、15：2）。アブラハムが年老いた時、彼は独り子イサクの妻を故郷から娶るため、この老いたしもべを故郷に遣わした。老いたしもべは主人の託された事に忠実であったので、順調にリベカをイサクの妻として連れ帰った。この事は、信者がどのようにして人を主の御前に導くかについて、素晴らしい教えがある。

#### 1、主人の託された事に忠実であった

彼は遣わされた（創24：12）

私達は喜んで主に遣わされる（イザ6：8；エレ1：4～8）；主が遣わされる証拠として、聖霊を賜ることである（ロマ10：15；ヨハ20：21～23）

彼は主人が与えた財産を上手に運用する（創24：10）

神は私達に様々な恵みを与えられた（コリ12：4～17；ロマ12：6～11）；努めて発揮し、上手に運用し、決して神の恵みを埋もれさせてはならない（マタ25：14～30）

用事を終えるまでは、食事を取らない（創24：33）；辛勞を厭わず、怠けないで

常に努力する（創24：54～58）

神の御働きは飲食に勝る（ヨハ4：32～34）、力を尽くして主のために多く働く（コリ15：58；ロマ12：11）

2、彼は祈りに頼って働いた（創24：12～14）

彼は働く前に祈る（創24：12～14）

彼は働きながら祈る（創24：26～27）

神のために働く時は、絶えず祈り、神の導きと助けを求める（箴3：5～6；コロ4：2～3；使徒6：4）

イエスも私達に祈りの模範を残してくれた（ルカ6：12～13、5：16；マル1：35；マタ14：23）

3、彼は主人を証するのが上手である

自分の事は話さない、ただ主人の事を話す（創24：34～38）

証をする時は、自分の長所ではなく、キリストの長所を伝える（コリ2：2；コリ2：5）

主人の豊かさとお愛を伝える（創24：34～38）

私達もキリストの恵みとお愛を伝える（マル5：20；ヨハ4：39～40）

## 二、ナバルの妻アビガイル

サムエル記上二十五章に不思議な夫婦が記載されている。彼らの性格、個性はそれぞれ異なっていて、反比例している。ナバルは稀に見る愚かな人で、アビガイルはこの上なく賢い人である；一人は愚かで、一人は賢い、一人は悪で、一人は善、一人は粗暴で、一人は善良である。ここで、アビガイルの美点を幾つか挙げて、互いの励ましとしよう。

1、穏やかで親しみやすい

ナバルは剛情で、粗暴であったので、誰も彼と話さない（サム上25：3，17）

アビガイルは優しく、親しみやすい（サム上25：14～17）

アビガイルは優しく夫に接し、夫の粗暴な性格に耐えた（サム上25：36～37）

柔和、従順、忍耐の品行は、婦人たちの素晴らしい飾りである（ペテ3：1～6；箴15：1、18）

2、非常に賢い

アビガイルは賢くて美しい婦人である（サム上25：3）

美貌はあるが、見識のない婦人になってはいけない（箴11：22、14：1、31：30）

アビガイルは自分の賢さと機知によって、全家族を死から救った（サム上25：3，19，32～34）

知恵に基づいて物事を行い、人と付き合う（箴28：26；コロ4：5；参考：サム下20：14～22）

主は言われた：「蛇のように賢く」（マタ10：16）、予期せぬ災害から免れる（箴27：12）

知恵は神から来る、故に、神に知恵を求める（ヤコ1：5；箴9：10）

アビガイルは恩を覚えて、恩に報いる。また、喜んで施す（サム上25：18，27）

恩を思い、恩に報いる（サム下9：1～8）

喜んで人に施し、人に与える（使徒20：35；箴3：27、11：24～25；テモ6：18～19；詩112：9）；信者の家族に対しては、尚更のことである（ガラ6：10）

アビガイルはへりくだって赦しを求めた（サム上25：23～31）

過失があればへりくだって素直に認め、神の赦しを求めて、人の許しを請う（箴28：13；ルカ18：9～14；詩32：5；ペテ5：5～6）

### 三、足なえのメピボセテ

メピボセテはサウルの孫で、ヨナタンの息子である。エズレルからサウルとヨナタンの戦死の知らせがきた時、彼は五歳であった。乳母が彼を抱いて逃げたが、急いで逃げる時、その子は落ちて足なえとなった（サム4：4）。メピボセテの父が生きていた頃、ダビデと同盟を結び、生死を共に出来る友であった。ヨナタンはサウルの手からダビデを救い、ダビデに恩があった。ある時、ヨナタンがダビデに言った：「もしわたしがなお生きながらえているならば、主のいつくしみをわたしに施し、死を免れさせてください。またわたしの家をも、長くあなたのいつくしみにあずからせてください。」故に、ヨナタンはダビデと同盟を結んで言った：「どうぞ主がダビデの敵に、あだを返されるように」（サム上20：14～17）

その後、ヨナタンが死んで、ダビデが即位して王となり、ヨナタンの盟約に従って、ヨナタンの家の唯一の生存者である足なえのメピボセテを王宮に迎え入れ、ダビデと共に暮らし、王の子の一人のようにダビデの食卓で食事をした。この後、ダビデは罪を犯し、神が彼の子アブサロムを通して彼を追撃した。ダビデは王宮を離れ、亡命生活を送った。この逃亡期間中に、メピボセテはダビデに対し忠実を表し、不当な扱いを受ける生活をも送った。しかし、メピボセテは一つ一つ克服した。本当に記念に値する小人物である。

#### 1、ダビデに対して感謝に尽きない

彼は足なえで、死ぬべき存在であったが、ダビデの恩赦を受けて、死を免れた（サム下9：1～8）

私達は罪人で、死ぬべきであったが、主の救いにあずかり、罪と死から免れた（ヨハ5：19；ロマ5：12，8～10；エペ2：1）

ダビデは彼の死を免れさせただけでなく、彼に家業としもべを与え、王の子の一人のようにダビデの食卓で食事をした（サム下9：9～13）

私達に与えられた主の恵みもこれほどに大きい（詩103：1～5；エペ1：3，13～14；ペテ1：3～4）。私達は如何にして主に感謝し、主に報いるべきか？（詩116：

12～13)

2、彼はダビデに対し、二心なく忠誠を貫く

メピボセテは王が離れた日から、王が平安無事に帰ってくる日まで、足を飾らず、髭を整えず、着物を洗わなかった(サム下19:24)。王が帰るのを待つため、願って苦しみや屈辱を受ける生活を送る。

私達も主への忠実を表すため、世の人と聖別した生活を送り、主の再臨を待ち望む(コリ6:14～18; ペテ3:13～15)

3、彼はヂバの過ちを許す

メピボセテのしもべヂバは、ダビデが難を逃れている時、主人に隠れて、多くの物を持ってダビデに会いに行き、また、ダビデの前で多くの悪口を言った(サム16:1～4)。ダビデが平安無事に帰ってきた時、メピボセテは一言も弁解せず、完全に許した(サム下19:25～28)

私達も他人の過ちを許し、そうすれば主も私達の過ちを許してくれる(マタ6:14～15、18:21～35; 箴19:11)

4、彼は王がいれば、全てを捨てても構わないと心から思った

メピボセテは王に言った:「わが主、王が安らかに家に帰られたのですから、彼にそれをみな取らせてください」(サム下19:29～30)

私達が主を貴いと思うなら、世の万物はふん土のように思える(ピリ3:7～8; 詩73:25～26; ペテ1:24～25; ヨハ2:17)

#### 四、シュネムの婦人

信仰生活において、ある女性達は往々として男性よりも主を愛し、信仰が強く、人を愛した。シュネムの婦人もその内の一人である。彼女は平凡な女性であるが、記念に値する人物である。

1、彼女は客人を良くもてなす(列王下4:8～10)

客人をひたすらもてなす(ロマ12:13; ヘブ13:1～2)

客人をもてなせば、必ず報われる(マタ10:40～42; 創18:1～15)

2、彼女は足るを知り、貪らない(列王下4:12～13)

私達も全ての事において満足し、お金を貪らない(ヘブ13:5; テモ6:6～10; ピリ4:11)

3、彼女は安息日を守り行う(列王下4:22～23)

安息日を記念して、聖日を守る(出エジ20:8～11; イザ58:13)

守り行ふ者はさいわいである(創2:3; イザ56:2)

4、彼女は神を頼る(列王下4:24～37)

全ての事において神に頼り、神に祈れば(ピリ4:6～7; 詩37:5; イザ26:3)、神は必ず平安を賜る

5、彼女は預言者の話に聞き従う（列王下8：1～2）

預言者の話を軽んじてはならない（テサ5：20；歴代下36：11～21）

ヨシャパテ王は良い事を言った：「あなたがたの神、主を信じなさい。そうすればあなたがたは堅く立つことができる。主の預言者を信じなさい。そうすればあなたがたは成功するでしょう」

## 五、ナアマン元帥のつかえめ

ナアマンはスリヤ王の軍勢の長で、ある時、彼はスリヤ軍を率いてイスラエル人と戦い、イスラエルから一人の少女を捕らえてきた。ナアマン元帥は地位や名声は高いが、らい病を患っていた。その後、この少女の証を通して、らい病が清められた。正に記念に値する「小」人物である

1、彼女は懸命に元帥夫人に仕えた（列王下5：2）

僕たる者よ、何事についても、肉による主人に従いなさい。人にへつらおうとして、目先だけの勤めをするのではなく、真心をこめて主を恐れつつ、従いなさい。何をするにも、人に対してではなく、主に対してするように、心から働きなさい（コロ3：22～24；エペ6：5～8）

ヨセフのように忠実に主人に仕える（創39：1～6）；ダニエルのように忠信に働き、一切の間違いも過ちもない（ダニ6：4）

2、彼女は信仰が良い（列王下5：3）

彼女は預言者を知っていて、更には預言者が人の病気を治せると信じていた。これは彼女の信仰の表れである

信仰がなくては、神に喜ばれることは出来ない（ヘブ11：6）、信仰は真理を聞くことから来る（ロマ10：14、17）、祈りから来る（ルカ17：5）

3、彼女は勇敢に証をした（使徒4：20）

彼女は夫人を通して主人に証をした。結果主人を救った（列王下五章）

私達は勇敢に証をして（使徒4：20）、多くの人々が真理を理解し、悔い改めて主に帰すように（ロマ10：14；ヨハ1：40～49）

## 六、王宮の門を看守するモルデカイ

モルデカイはユダヤ人で、アハシュエロス王の時代、スサの王宮の門を看守する平凡な小人物である。しかし、彼の祖国と人民への愛、王への忠実、信仰への忠節は、私達が記念に値する。

1、彼は職務に忠実であった（エス2：21～23）

私達も教会では、あらゆる節々を補い合って、各々の職務を果たす事によってキリストの身体を建てる（エペ4：12、16；ペテ4：10～11）

2、職務を果たす事だけを考え、賞与を求めない（エス6：1～3）

彼は王の命を救ったが、褒美を求めなかった；功績に従って褒美を得られなくても、不平不満を言わない。実に尊敬に値する。最後、王は彼に褒美を取らせ、宰相と成らせた（エス6：1～12、10：1～3）

私達は主に対して忠実でなければならない（コリ4：2；黙2：10）

主のために労苦する事は、決して無駄には終わらない；時が来れば、主は必ず報いて下さる（コリ15：58；黙14：13）

### 3、如何なる困難にも挫けない信仰がある（エス3：1～4）

ハマンはアマレク人（エス3：1）、神の敵であり、悪魔を表す（サム上15：2～3、8）

私達は絶対に悪魔にひれ伏して拜んではならない（マタ4：9～10；ダニ3：16～18）、また、情欲に従ってはならない、聖霊に頼って情欲を消す（ガラ5：16～21、24）

### 4、彼には同族を愛する心がある（エス4：7～8、13～14）

死地にひかれゆく者を助け出せ、滅びによるめきゆく者を救え（箴24：11）

切に兄弟姉妹を愛する（ペテ1：22、4：7～8；コリ12：26；参考：ロマ9：3）

### 5、彼は心から同族のために祈った（エス4：1～3、16～17）

私達も全ての人のために願い、祈り、全ての人々が救われて、真理を悟る事が出来るようにする（テモ2：1～5）

## 七、紫布の商人ルデヤ

ピリピ教会は使徒パウロがマケドニヤで福音を伝えていた時に建てた最初の教会であり、この教会は使徒時代の教会から見て、各方面に亘って模範的な教会といえた。また、ピリピ教会の最初の信者がこの紫布を売る婦人ルデヤであった。このルデヤの信仰によって、直接的或いは間接的にピリピ教会に影響した。故に、ピリピ教会は模範的な教会となりえた。では、ルデヤ姉妹の長所について調べ、共に励ましの参考としよう。

### 1、人としての心構えと仕事に対する心構え

彼女は勤勉で苦勞を厭わない（使徒16：14）

賢い婦人は家の事をよく顧み、怠りの糧を食べることをしない（箴31：10、13、24、27；テサ3：8～12）

苦勞して蓄える者は必ず増し加えられる（箴13：11）

彼女はよく客人をもてなす（使徒16：15）

客人に対しては良くもてなす（ヘブ13：1～2；ロマ12：13）

惜しみなく施す者はさいわいである（コリ9：9～15）

### 2、神に対する方面

熱心に神を敬う（使徒16：14）

集会を止めてはいけない（ヘブ10：25）

安息日を守る（使徒16：13）

心を留めて真理を聞く（使徒16：14）

主が彼女の心を開かせた（ルカ24：45）

神の御言葉は尊い（詩119：127、19：7～11；伝5：1；ロマ10：17）

全家族を導いて信仰に入る（使徒16：15）

あなたの家族は全員信仰に入ったか？（ヘブ11：7；使徒16：31～34）

教会の礼拝のために、自分の家をささげた（使徒16：40）

## 八、五つのパンと二匹の魚をささげた子供

イエスが行った奇跡の中で大きな奇跡といえば、五つのパンと二匹の魚を五千人が十分に食べ、更にはパンくずが十二籠も残ったものがある。この大いなる奇跡は四福音書において詳しく記載され、ヨハネの福音書では、一人の子供によるささげであると特別に記されている。この子供は正に記念に値する「小」人物である。

1、彼は熱心に主の御言葉を聞いた（マル6：34～35）

これは良い方である（ルカ10：39、42）

2、彼は全てをささげた（ヨハ6：9）

主は子供を軽んじない（マタ19：13～14、18：10）

わずかなささげは却って最も多い（ルカ21：1～4）

わずかなささげは却って最も価値がある：五千人が十分に食べて、更に十二かご残った（ヨハ6：9～13）

ささげる事の原則：時宜にかなってささげる、力を尽くしてささげる（マル14：3～9；ルカ24：1～6）；心から願ってささげる（コリ9：7）；自分の持っているものに従ってささげる（コリ8：12）

## 九、ヨッパの女信者ドルカス

ドルカス、またの名をタビタという。彼女はヨッパの女信者で、広く善を行い、貧しい人に施した。ある時、彼女は病気になって死んでしまい、ヨッパの弟子達はペテロを招き、彼女のために祈ると、彼女は生きかえった。この事がヨッパ中に知れわたり、多くの人々が主を信じた（使徒9：36～42）

1、ドルカス（かもしかの意味）の名前（使徒9：36）

かもしかは美しい、可愛い、優しい、清いを表す（申14：4）、彼女は名実相伴う人である

2、彼女は数々のよい働きや施しをした（使徒9：36）

貧しい者を憐れむ（箴14：31、19：17）

やもめを憐れむ（使徒9：39；ヤコ1：27；ヨブ31：18）

彼女の善行が報いられる：やもめ達と信者は彼女を尊敬し、愛した（使徒9：37～39、神は彼女を死から生きかえらせた（使徒9：40～41）

貧しい者とやもめを憐れむ人は、神が必ず祝福される（詩41：1～3； コリ9：9；  
マタ25：34～40）

- 3、彼女が生きかえたので、多くの人が主を信じた（使徒9：42）  
世の塩となり、世の光となり、あなたがたを通して多くの人々が神をあがめるよ  
うにしてください（マタ5：13～16； ペテ3：1～2）

## 十、模範夫婦 アクラとプリスキラ

アクラとプリスキラは模範的な夫婦で、教会に対しても、働き人に対しても大きな助け  
となった。平凡な夫婦ではあるけれども、私達が記念に値する人物である。

- 1、夫婦で主に帰する（使徒18：1～2）  
これは幸せな結婚の根源である（ コリ6：14； 創26：34～35、27：46）
- 2、夫唱婦随（使徒18：1～2）  
夫の諸々の要因によって引っ越すことが多い；ローマからコリント、更にエペソ  
に行き、またローマに行き、再びエペソに戻る（参考： コリ16：19； ロマ16：  
3～5；使徒18：24～26）、妻は一言も不平不満を言わない（参考：ヘブ11：8；箴  
15：16～17）  
霊的な事においては妻が率先して行っている（聖書では彼らの名前が五回挙げら  
れているが、妻の名前が四回も先に挙げられている）
- 3、御働きを職業化する（使徒18：3）  
御働きに関係する仕事を探す、或いは、御働きを助けられる仕事に就く（エペ4：  
28； テサ3：7～12）
- 4、熱心に神の働き人をもてなす（使徒18：2）  
パウロは彼らの家に一年半も身を寄せていた（参考：使徒18：11）  
神の働き人をもてなす者はさいわいである（マタ10：40～41；列王上17：8～24；  
列王下4：8～37）
- 5、熱心に人を導いて主に帰する（使徒18：24～26）  
その後、アポロは教会の重要な働き人となる（ コリ3：4～6）  
人を導いて主に帰するためには、真理の土台を築くと人を救う熱意を備えなけれ  
ばならない（使徒18：26）
- 6、真理のために勇敢に立ち、命すらも顧みない（ロマ16：3～4）  
主の御名を大胆に認める（マタ10：32～33；マル8：38）  
主の御名のために、死に至るまで忠実であれ（黙2：10、12：11）  
義のために迫害された人達は、さいわいである（マタ5：10～12）
- 7、家庭を教会とする（ コリ16：19；ロマ16：5）  
パウロは臨終の時も彼らの事を想っていた（ テモ4：19）、真に主を愛し、人を  
愛した良き信者である。信仰の上における模範的な夫婦として記念に値する。